



瘡科秘錄

十

中武9  
727  
12止

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

武9  
門  
卷  
727  
12止



瘍科秘錄目錄

卷十

- 癰瘤  
枯筋箭  
黑子  
癰蟹  
血痣  
失榮  
委中毒  
溺死

石瘕

小便閉

大便閉

陰痿

瘍科秘錄卷之十

水戸 本間玄調和卿 著

瘻瘤

氣瘻 筋瘤 骨瘤 血瘤 肉瘤 粉瘤  
脂瘤 胎瘤 髮瘤 蟲瘤 蛙蟲瘤

瘻ヲ陽證トシテ六腑ニ配當シ瘤ヲ陰證トシテ五臟ニ配當ス故ニ六瘻五瘤ノ目アリ是ハ五積六聚ノ類ト同論ニテ強テ五臟六腑ニ配當シテ建タル名ニテ五瘻六瘤共ニ必ス有ルニ非ス病源候論ニ瘻ヲ破ルヘシ針スヘシト云瘤ヲ破ルヘカラスト論スサレハ陽證ノ者ハ治スヘク陰證ノ者ハ治ス可カラサル丁

ハ古ヨリ已ニ其論アリ然レ疋癰ニ陰證ニシテ治ス  
可カラサル者アリ瘤ニモ陽證ニシテ治スヘキモノ  
アリ故ニ余ハ癰ト瘤トヲ論セス先ツ陰陽ヲ辨シテ  
可治ト不可治トヲ決ス癰瘤ハ先ツ瘡中ニ何物ノア  
ル丁ヲ辨知スルヲ緊要トス然レ疋外ハ大抵一橈ノ  
形状ニテ皮肉ヲ隔タル中ニ差別ノアル丁ナレハ尤  
モ知リ難シトス諸方書ニ診法ヲ論スレ疋其診法ヲ  
以テ今實物ニ對スルニ五癰六瘤ハ姑ク置テ脂粉ノ  
二證タモ明辨スル丁難シ先師青洲老翁ノ治療ニ於  
ル一日ニ二瘤ヲ割キ三癰ヲ刺スニ至レリ余幸ニ其

門ニ親炙シテ日ニ視月ニ驗ミ其診法秘訣ヲ受ル丁  
ヲ得タリ是活物窮理學ノ貴フヘキ所以ナリ癰ハ纓  
也ト云フ說靈樞ニ出テ、古說ナレ疋穩ナラス愚私  
ニ攷ルニ癰ハ嬰ノ義ナリ其形皮寬シテ緊滿ナラス  
ブラリト下垂テ陰囊乳房ナトノ如ク懸タルヲ云フ  
莊子ニ癰瘤ノコトヲ附贅懸疣ト云リ懸ノ字ニ因テ視  
レハ癰モ亦嬰ノ義ナル丁明也嬰字又留字ニ對シテ  
極テ妥帖也瘤ハ留<sup>トヨ</sup>ノ義也其形物ノ留結シテ隆起<sup>タケ</sup>ト  
急脹シタルヲ云フ凡癰瘤ノ吉凶ハ頸ニ發シテ筋ノ  
如ク肉ノ如ク但頸ノ太クナリタルヤウニ見ユル者

或ハ頸下及ヒ頸ニ下垂テ瓜ノ如クニ至リ之ヲ押ニ  
肉ノ如ク皮ノ如クニシテ中ニ何モナキヤウニ覺ユ  
ルモノ或ハ瘤頭磊落凹凸ニシテ堅硬丁石ノ如キモ  
ノ或ハ瘤根深ク骨ヨリ生シタルヤウニ見ユル者或  
ハ浮絡ノ瘤ヲ纏フモノ或ハ瘤中ニ動悸ノアルモノ  
ハ共ニ難治ニテ凶ナリ瘤根淺ク瘤ヲ皮上ヘ載テ置  
タルヤウニ見ユルモノ或ハ根蒂少シモ無ク上下左  
右へ運轉シ瘤ヲ皮肉ノ間へハレタルヤウニ見ユル  
モノ或ハ瘤窠軟ニシテ水ニテモ停蓄シタルヤウニ  
覺ユルモノハ治スヘクシテ吉ナリ若誤テ治スヘカ

テサル證ノ瘤ヘ針刀及ヒ灸炳腐藥等ヲ施ス寸六膿  
火出ス惟瘀水ノミ多ク流レ或ハ鮮血迸出テ瘡口翻  
花シテ漸ニ闊大ニナリ初テ疼痛ヌ發シ瘡口ノ四  
圍腫硬凹凸ニナリ愈腐ルニ從テ愈腫レ遂ニ筋骨ヲ  
露シテ死ス癰瘤ノ翻花セシ者余力目擊スル所啻ニ  
數十人ノミナラス就中尤希有ト覺タルハ某ノ妻百  
會ニ小瘤ヲ生シ一醫腐藥ヲ貼スルニ遂ニ翻花シテ  
之ヲ刺スニ血少許出テ迹へ腐藥ヲ挿ニ翻花シテ半  
面ヲ覆フニ至レリ何レモ遂ニ死セリ其形狀甚タ奇

異ニハ繪圖トシテ編末ニ載ス氣癰<sup>キヨイ</sup>ハ方書ニ憂喜ニ  
隨テ消長スト說テアレ凡憂喜ニハカキラス時ニ因  
テ消長スルモノアルハ氣癰也多ハ耳ノ前後或ハ頸  
或ハ腋下脇肋ノ間ニ生シ其形ハ下垂テ中モ實シテ  
軟綿<sup>ガラカ</sup>ナルモノ也是ハ難治トス筋瘤<sup>キソリカ</sup>ハ靈樞ニ見ヘテ  
手背跗上<sup>テカウアシノカウ</sup>ナトノ肉少ク筋多キ處ニ生ス筋ノ凝結シ  
テ節ニナリタルナリ硬クシテ結核ノ如ク根脚淺ク  
シテ微ク運轉ス大サ栗子梅核ノ如クニシテ格別ニ  
大ニ成ラス捨て置テ自ラ消散スルモノアリ又久フシテ  
脂瘤ニ變スルモノアリ若灸ヲ炷鍼ヲ刺シ強テ攻ル

寸ハ亦消散シテ四肢走痛シ痛風ノ如クニナルモノア  
リ格別邪魔ニモナラヌ者ナレハ深ク療治セスシテ  
可ナリ

骨瘤<sup>コツカ</sup>ハ顎骨ニ生シタルヲ多ク療治セリ四肢ハ關節  
ニ發スルモノナリ骨何ト無ク漸ニ隆起シテ瘤ト  
成ナリ硬キト石ノ如ク根脚深ク確乎シテ微モ運轉  
セス何如ニモ著<sup>イヒヤ</sup>ク骨瘤ナルヲ知ルヘシ皮ヲ割開  
シテ骨ヲ碎キ去ルニ黃水ノ出ルモノナリサレハ骨  
中ニ敗液ヲ停蓄シ多クナルニ從テ骨ノ隆起スルモ  
人ナルヘシ顎骨ニ發スルモノハ口中ヘモ波及シテ

上腭齒齦モ腫レル者ナリ療治シテ低クハナレ氏瘡  
水滴瀝トシテ止ス附骨疽ニナルモノ多シ  
血瘤ハ脉絡ノ潰テ膨脹シタルナリ血ノ實テアルユ  
ヘ血瘤ト云フ動脈ヨリ發スルト浮絡ヨリ生スルト  
ニ證アリ脉ニ發スルヲ動脈瘤ト為シ絡ニ生スルヲ  
靜脈瘤ト名ク動脈瘤ハ多クハ胸脇面目ノ間ニ生ス  
初ハ小ニシテ蠶豆ノ如ク微ニ鼓動モ一段高クナリ肌表ヨ  
寸ハ茄瓜ノ如クニ至リ鼓動モ一段高クナリ肌表ヨ  
リ見ユルヤウニナルナリ瘤頭ヲ按スニ急脹シテ初  
メハ牢キヤウニ覺ユレ比強ク按ス寸ハ深ク陷ル氣

味アリ又指ヲ放ス寸ニ内ヨリ推出スヤウニ覺エ是  
ハ氣血ノ内ニ充實テアル故也是モ亦時ニ因テ消長  
スル氣味アリ尤モ大ニナル寸ハ微痛シテ神思快爽  
カラス一身振ハトシテ搖キ面色萎黃ニ變シ呼吸促  
迫シ漸ニ疲勞レ死ス或ハ自ラ色ヲ變シ遂ニ潰ヘ  
血大ニ出テ、死スルモアリ或ハ物ニ觸レテ瘤ヲ破  
リ或ハ血瘤ト心付ス誤テ針ヲ刺ス寸ハ鮮血ノ奔出  
ト盆ヲ傾ルカ如ク止血ノ藥及ヒ烙鐵縛帶等ヲ施セ  
止遂ニ止ス頃刻ノ間ニ一身ノ血悉ク出テ面色青白。  
冷汗如流呼吸促迫四肢厥冷殆ト大吐血ノ状ヲ見シ

テ頓ニ死ス静脉瘤ハ根蒂アリテ運轉セス緊満ナレ  
氏堅硬ナラス指ニテ強ク捺入ル、寸ハ少ク蟄伏シ  
手ヲ放テハ本ノ如ク膨脹シテ血ノ出入スルヲ自ラ  
知ルヘシ久キヲ經テ尤モ大ニナル寸ハ硬軟相半シ  
テ凹凸アリ又青絡幾條モ瘤頭ヲ纏ヒ蚯蚓ノ盤曲ス  
ルニ似タリ此モ難治ナレ氏手ヲ付サレハ害ヲ成ス  
凡フ血瘤ハ皮ノ厚キ處へ出タルハ皮色不變皮ノ薄  
キ處へ出タルハ赤クナリ少シ物ニ觸レテモ出血ス  
ルトアリ常ニ保護ヲ加フヘシ

肉瘤ハ根蒂深ク微モ運轉セス凹凸アリテ圓正ナラ

ス瘤中充實シテ微モ軟處ナシ多ク上部ニ發ス面ハ  
勿論口中ヘモ生ス又目窠ノ中ヘ發シテ眼珠ヲ推出  
ストアリ漫ニ鍼ヲ刺シ灸ヲ炷テ翻花スルトアリ小  
ナル者ハ斬截シテ根蒂ヲ遺サレハ治スルナリ大  
ナル者ハ其毒筋骨ニ在故根蒂ヲ盡スト能ス根蒂微  
シ遺リテモ必ス再發ス常ニ重任ヲ擔フ者肩井大推  
ノ肉隆起シテ瘤ニナルトアリ俗ニニナヒコフト云  
フ摩挲スルニ完テ肉ナルトヲ知ルヘシ因テニナヒ  
コブヲ能ク見覺へ後ニ真ノ肉瘤ヲ診スレハ著明ニ  
知ルニ足レリ

粉瘤ハ粉刺ト同因ナリ粉刺ヨリ粉瘤ニ變スルヲア  
リ故ニ多ク面部ニ發ス根蒂至テ淺ク瘤ヲ皮上ヘ載  
セテ置キタルヤウニ見ユ又耳下及ヒ脇肋ノ邊總テ  
皮薄キ處へ生シタルハ珠ヲ皮中へ入レタルヤウニ  
テ上下左右へ運轉シ若シ割開スレハ直ニ脱出スヘ  
キヤウニ見ユルナリ小ナルモノハ栗子核ノ如ク  
大ナルモノハ雞卵鴨蛋ノ如ク格別ニ大ナルハ少ナ  
シ春林軒ニ從學ノ時大サ拱スヘキモノヲ見ルノミ  
瘤頭ヲ按スニ充實スレ汎微シク軟ニシテ中へ糊ニ  
テモ入レタル手應アリテ知リ易キモノナリ若シ割

開スレハ粉穢出ツ雪花菜ノ如キモアリ濃糊ノ如キ  
モアリ色白クシテ臭氣アリ或ハ灰色モアリ粉ヲ熟  
視スルニ粉刺ノ粉ニ同シ中ニ囊膜アリテ粉ヲ釀成  
ス故ニ膜ヲ除キ盡サ、レハ必ス再發ス幸ニ自ラ腫  
痛ヲ起シ潰ヘ粉膿及ヒ膜モ一時ニ出テ、自ラ愈ル  
トアリ或ハ膿淋漓トシテロヲ納ス遂ニ翻花スルモ  
ノアリ然レ氏粉瘤ハ第一治シ易キモノニテ能ク囊  
膜ヲ去ル時ハ根治シテ翻花ノ慮リナシ  
脂瘤ハ三因方ニ出ツ儒門事親ニ膠瘤ト名ク肉少ク  
筋多ク皮薄處ニ生ス根蒂淺ク能ク運轉シ小ナルモ

ノ多ク大ナルモノ少シ其形態粉瘤ニ疑似キモノナ  
リ粉瘤ヨリモ膜薄ク皮モ又薄ク緊満スレ氏軟ニ繩  
ニ刺セハ水ニテモ出ソウニ見ユル者ナリ又年數深  
遠ニ至レハ色淡紅ニ變スレ氏腫痛ヲ起サス又自潰  
セス是粉瘤ニ異ル所ナリ若剖開セハ穢物ヲ出ス其  
態凝脂ノ如ク桃膠ノ如ク膠飴ノ如ク黃臘色モアリ  
雪白色モアリ沈香色モアリ稀薄ニシテ流出スルモ  
アリ粘膠ニシテ凝滯スルモアリ手背ニ發スルハ尤  
皮薄キ處工へ光澤ヲ生シ日ニ照シテ見レハ透明ヤ  
ウニ見ユル者ナリ已上ノ診法ニテモ決シ難ク又筋

瘤ニモ血瘤ニモ疑似キ者ハ測瘡針世ニ氣附針ト稱  
サ長サ共ニ金創針ノ如ク圓クシテ棱角ナシ銀ニテ  
製ス用フル時水銀ヲ塗リテ刺スヘシ能ク通リテ痛  
ナシ瘤及ヒ流注等ノ虛實ヲ刺シ斜正進退シテ瘤中  
ヲ探索スルニ粉瘤ハ針ニ粘着シテ重シ筋瘤ハ充實、  
シテ針少モ運轉セス血瘤ハ血注射シテ止マス脂瘤  
ハ針輕ク運轉シ針ヲ拔ケハ脂液針口ヨリ出ツ予粉  
脂ノニ瘤ヲ治スル丁尤多ク頗診法ヲ會得シ指頭繞  
ニ瘤頭ニ觸ル、寸ハ粉脂ヲ決スヘシ瘤ハ死生ニ關  
リテ至極大切ノ者ナレハ何瘤ニテモ診法ヲ得ル丁  
粉脂ニ瘤ヲ視ルカ如クシテ後ニ療治スヘシ未熟ニ

テ針灸ヲ施シ人ヲ害スルモノ多シ慎ヘキトナリ  
胎瘤ハ小兒生レナカラ生シテアルモノ多シ生レテ  
血瘤ニシテ針ヲ刺スヘカラスト云ヘリ然レ氏剖開  
スルニ敗血ノ停蓄ニテ真ノ血瘤ノ類ニアラス針ヲ  
刺スモ害ヲ為サス根淺ク皮薄ク大ニナリテ高クナ  
ラス形チ饅頭ノ如ク他瘤ノ如ク緊滿セス弛ミアリ  
テダブミトスルモノナリ瘤ノ周圍ヲ摸索スルニ徹  
シ凹ミ縁ノ立テアルモノナリ頭顱ニ限リテ發ス十  
二三歳ニシテ胎瘤ヲ發スルトアリ何レモ治シ易シ

是ヲ真ノ胎瘤トス初生ニ血瘤肉瘤等モアリ是モ胎  
瘤ト稱シテ可ナレ氏真ノ胎瘤ニハアラス熟視シテ  
混淆スヘカラス

髮瘤ハ一種ノ瘤ノヤウニ論シテアレ氏實ハ粉瘤脂  
瘤ノ中ヘ毛髮ノ盤旋テ生シタル也故ニ髮中或ハ髮  
際ナトヘ發ス割開スレハ蘿絲<sup>ハス</sup>綱<sup>イト</sup>ノ如キ軟毳ノ毛  
髮脂粉ニ從テ出ル也是レモ膜ヲ去ラサレハ毛髮ヲ  
除キ去ルモ又從テ生シ愈出テ止マス

蟲瘤<sup>シコ</sup>蛇蟲瘤<sup>カツコ</sup>黑砂瘤<sup>カツコ</sup>等ハ余未夕目擊セス青洲老翁ノ  
物語ニ蟲瘤ハ大瘤ノ後ニ發シ蛇蟲瘤ハ瘤中ヨリ形

チ蛇蟲ノ如キ蟲出テ、除キ去レハ又從テ生シ遂ニ  
ハ不起ニ至ルモノナリ黒砂瘤ハ粉瘤ノ一種ニシテ  
粉久フシテ砂石ノ如クニナリ黑色ニ變スルモノア  
リ真ノ砂石ヲ出スニハ非スト云ヘリ同藩某聰耳ナ  
トノ如ク耳中ヨリ軟ナル砂ノ出タルトアリ黒砂瘤  
ノ砂ト同種ナルヘシ○治法氣癆ハ十全流氣飲ヲ與  
ヘ神水膏ヲ摩擦スヘシ筋瘤ハ防風通聖散ヲ與ヒ神  
水膏ヲ摩擦スヘシ骨瘤ノ顧骨ニ生スルモノハ必ス  
口中へ腫レ出シテアリ針ヲ刺シテ敗液ヲ去リ破敵  
メイチヤニ赤汞丹ヲ塗リテ挿入スヘシ關節ニ發シ

タルハ麻沸湯ヲ與ヒ瘤頭割開シ齧骨ヲ去リ跡ハ金  
創ノ治法ヲ用フヘシ動脉瘤ハ百死一生ナシ十全太  
補湯ハ珍湯炙甘草湯等ヲ撰用スヘシ静脉瘤モ動脉  
瘤ト同様ニテ古ヨリ治法ナシ師家ニテモ難治トシ  
テ手ヲ下サス然レ由カ静脉瘤ノ損傷ヲ治シ寸口  
ノ動脉傷モ療シタル手段ニ因ラハ治術ノ無キニ非  
ス今此ニ治驗二条ヲ記ス江戸博正町家主某膝上ニ  
宿瘤アリ大サ拳ノ如ク緊脹シテ根蒂深ク瘤頂少ク  
赤色ニ變シ鼓動ハナケレ由脉絡怒張シテ周圍ニ盤  
屈シ即静脉瘤ナリ不治ノ證ユヘ強テ治スヘカラサ

ルトヨ告ク一日醉歸シテ火桶ノ角ニ觸レ血大ニ迸  
リ出ツ所謂瞽者<sup>ムクラ</sup>不恐蛇ノ類ニテ初ハ幸ニ思ヒ兩手  
ニテ血ヲ絞リ出スニ一旦ハ平塌ニナレ压手ヲ放テ  
ハ又膨脹シテ血愈出テ、止マス卒ニ驚テ診ヲ請フ  
予時ニ不在<sup>ルス</sup>弟子數輩行キ綿布ニテ繩縛スルト數十  
匝ニ至ル明日予診スルニ流血滴瀝トシテ止マス銅  
盤ヲ置テ血ヲ承ルニ幾二三升許リ徐々ト繩帶ヲ去  
ルニ熱血奔飛スルト盆ヲ傾ルカ如シ其執止血ノ法  
モ施シ難シ勿論創口モ熟視スルトアタハス故ニ其  
儘繩帶ニテ緊縛スルニ血ハ止ミタレ既亡血スルト

已ニ多ク顔色萎黃ニ變シ脉浮大數ニシテ發熱シ數  
嘔吐シテ藥餌納マラス姑ク巫神湯加廣東人參ヲ與  
ヘ二日ヨ隔テ、繩縛ヲ解クニ凝血腐敗シテ穢氣薰  
蒸ス創口濶大ニナリテ皮瘡根ニ縮リ瘤膜其中ヨリ  
突出緊滿シテ前日ニ倍セリ色紫黑ニシテ軟カナリ  
試ニ金創針ニテ刺スニ少モ知覺ナク但血ノ注射ス  
ルト刺絡ニ同シ指頭ニテ輕々ニ揉ミ抑遏スルニ自  
ラ蟄伏シテ平塌ニ歸シ手ヲ放テハ起脹スルト故ノ  
如シ予カ新工夫ニテ烙鐵<sup>縫エノ用フル</sup>通紅ニ燒キ  
瘤上ヨ烙<sup>ヤク</sup>ト數<sup>ミ</sup>ニシテ焦黑色ニ至ルヲ度トシ跡ヘ破

敵ヲ綿ニ攤テ貼シ其上ヘ縛縛ヲ施シ明日ニ至ルニ  
瘤上龜坼シテ甲錯ヲ起セリ鯨籠ニテ輕々ニ燒皮ヲ  
刮去ルニ少シ無理ニスル寸ハ血出ルト刺絡ノ如シ  
其へハ灸ヲ炷或ハ烙鐵ヲ施シテ止メ燒皮ヲ刮盡シ  
テ後亦一圓ニ烙鐵ヲ當テ破敵縛縛ヲ施ス丁前日ノ  
如クス日ニ是ノ如クニシハ珍湯ヲ與フルニ瘤窠漸  
漸ニ縮小シ四十餘日ニシテ全愈ス水戸額田驛某鑿  
仔ヨシヲ持チ誤テ寸口ヲ刺シ血大ニ逆リ出ツ取合トライアス手  
帕マスクノ類ニテ創口ヲ縛縛スル丁數十匝明日ニ及テ醫  
ヲ迎ヒ縛縛ヲ解クニ血又奔飛シテ止ス愴惶シテ措

ヲ失シ急遽縛縛ヲ施スノミニ三日ヲ經血止リタル  
ト心得縛縛ヲ解クニ血愈出テ、止ス又徒ニ縛縛  
スルノミ予カ診スル時ハ已ニ十七日ヲ經ルト云フ  
前後出血スルト約スルニ四升餘リ之カ為ニ面色萎  
黃。唇舌刮白。虛里及ヒ人迎尺澤等ノ脉奔馬ノ如シ床  
蓐ニ就キ看病入ヲ左右ニシ村醫モ亦交診シテ姑ク  
十全太補湯ヲ與ヒテ辛ヲ束ス血猶綿布ヲ滲透シ凝  
血腐敗シテ穢氣薰蒸ス先ツ禁止帶カットヲ施シテ尺澤ノ  
脉ヲ押遏シ徐々ト縛帶ヲ解クニ創口潤太ニナリ皮  
色灰白ニ變ス脉管脹シテ創外へ突起シ太サ雞蛋

ノ如ク色紫黒ニシテ凝血ニ似タリ前條ノ靜脉瘤ヲ  
傷リタルニ異ナラス須臾ニシテ血奔飛シテ幾承塵  
ヲ射ル急ニ創口ヲ握ルニ血猶五指ノ間ヨリ涌出シ  
テ止ス血熱シテ灼ニ似タリ暫モ手ヲ放ツト能ス其  
勢焰鐵決勝等ヲ施スノ間ヲ得ヘカラス因テ出血ハ  
其儘ニシ价者ヲシテ指ニテ脉管ヲ創中へ押込マシ  
メ針ヲ以テ縫合スル丁七針ニシテ血劃然トシテ止  
ム其上へ前衝ヲ貼シ緊々繻縛ヲ施シ數十日ニシテ  
全愈ス已上ノ治法ヲ参考スル寸ハ靜脉瘤ノ治法ヲ  
會得スルニ足レリ肉瘤ノ尤大ナルモノハ根蒂筋骨

ニ入テ治シ難シ強テ截斬スレハ一旦低クナレ氏必  
ス再發ス雞蛋鴨卵ノ大サナレハ根蒂未深シテ治ス  
ヘシ麻沸湯ヲ與ヘ先ツコロシメズニテ瘤根ヲ切リ  
廻シ根蒂ヲ盡ク除キ去リ跡ハ金創ノ治法ヲ用フヘ  
シ肉瘤截斬ノ一法ハ至極巧者ノ入ル丁ニテロ授面  
命ニ非サレハ其祕蘊ヲ傳ヘ難シ翻花瘡ノ治法ヲ參  
考スレハ其術ノ大畧ヲ會得スヘシ若誤治シ或ハ自  
潰シテ翻花スルモノハ十全太補湯ニ宜シ痛ニ甚シ  
キモノハ乳香沒藥ヲ加フヘシ○隣里某ノ兒生レナ  
カラ長強ノ端ヘ贅肉ヲ生シ長サ三寸許リ太サ雙指

ノ如ク兒漸成長スルニ從テ齧肉モ亦從テ長大ニナリ  
踈ニモヲ生シ宛モ獸尾ニ似タリ三歳ノ時予ニ就  
テ治ヲ乞フ乃チ根蒂ヨリ斬截スルニ内モ肉ニテ餘  
リ出血モナク十四五日ニシテ全愈セリ實ニ希有ノ  
奇病也蓋シ肉瘤ノ類ナルヘシ粉瘤ノ小ナルモノハ  
三稜針ニテ刺シ粉ヲ去ラスニ針口ヘ猛汞油ヲ挿入  
シ遊英ニテ蓋ヒ二三日ヲ經レハ熾衝シテ膿ニ化シ  
膜モ膿ニ從テ出ルモノナリ麻沸湯ヲ與ヒ瘤頭ヲコ  
ロシメスニテ左リヨリ彎月様ニ切リ剪刀ニテ右ヨ  
リ又半月様ニ剪テ齧皮ヲ去リ粉ヲ除キ膜ヲ去リ縫

合シテ金創ノ治法ニ從フヘシ脂瘤ハ刺シテ脂膠ヲ  
絞リ出シ跡ヘ破歟又イチヤニ赤汞丹ヲ塗リテ挿入  
スレハ膜モ薄キモノ故早ク腐敗シテ速ニ愈ルモノ  
ナリ又神水膏ヲ日ニ摩擦シ防風通聖散ヲ與ヘテ愈  
シモノアリ胎瘤ノ妙藥ハ神水膏ナリ日ニ二度ツ、  
摩擦スヘシナルモノハ十餘日ニシテ必ス愈ユ大  
ナルモノハ二十餘日ニシテ必ス愈ユ髮瘤蟲瘤蛇蟲  
瘤黑砂瘤等ハ粉瘤脂瘤ノ治法ヲ撰用シテ可ナリ

癰瘤主治方

十全流氣飲 正宗治憂鬱傷肝。思慮傷脾。致脾氣不行。遂

於肉裏乃生氣癰肉瘤。皮色不變。日久漸大。宜服此藥。

陳皮

茯苓

烏藥

川芎

當歸

白芍

各一錢附八分

青皮

六分

甘草

五分

木香

三分

右十味薑棗煎服

防風通聖散

十全大補湯

赤汞丹

先鋒

破敵



肉瘤翻花圖

肉瘤生百會。  
固不可治。醫  
誤刺之。翻花  
蓋頭面。

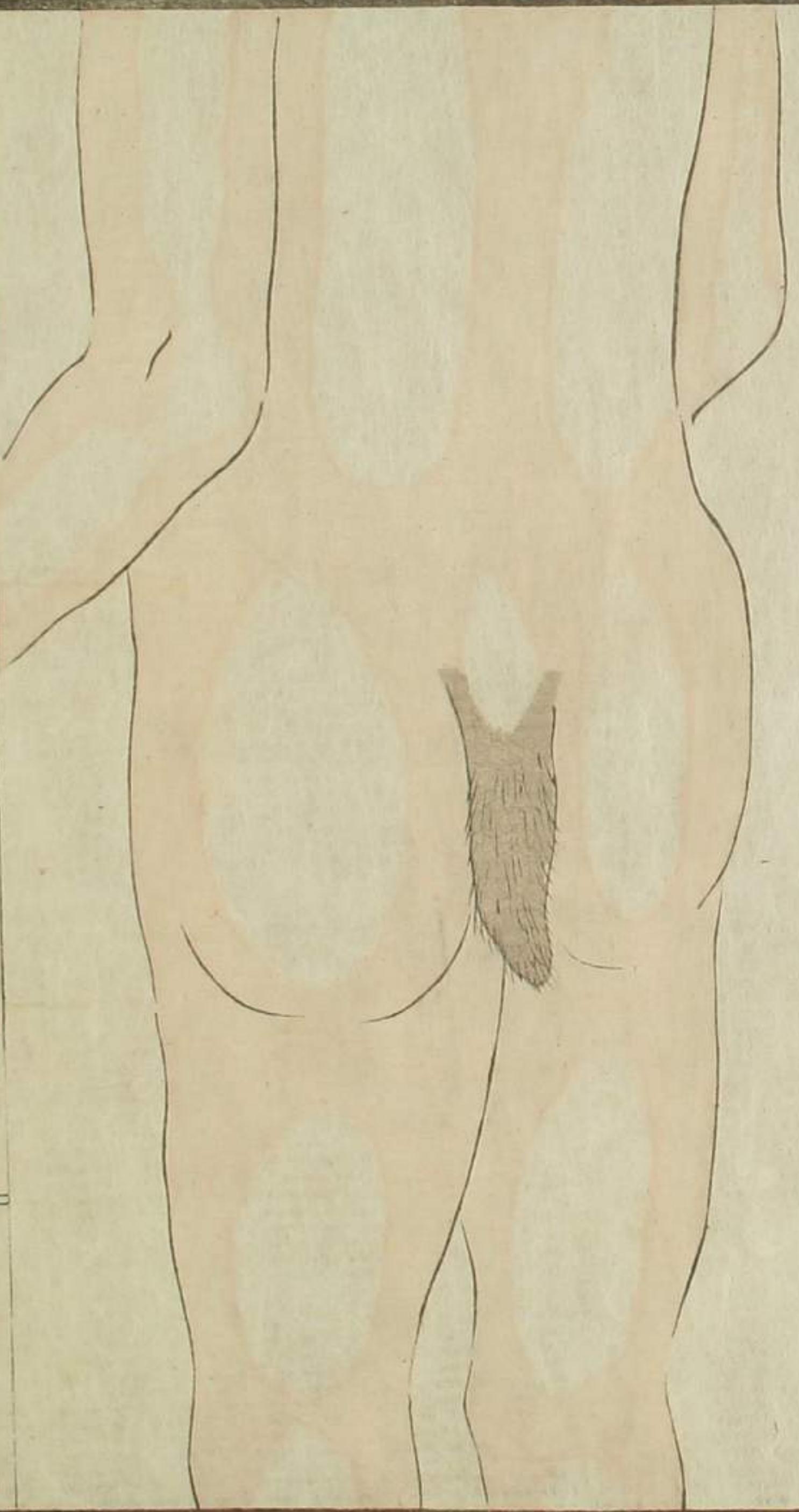
肉瘤翻花圖

耳側有瘤大  
如梅子。固屬  
不治。就醫強  
請治。絶刺之。  
翻花不止。



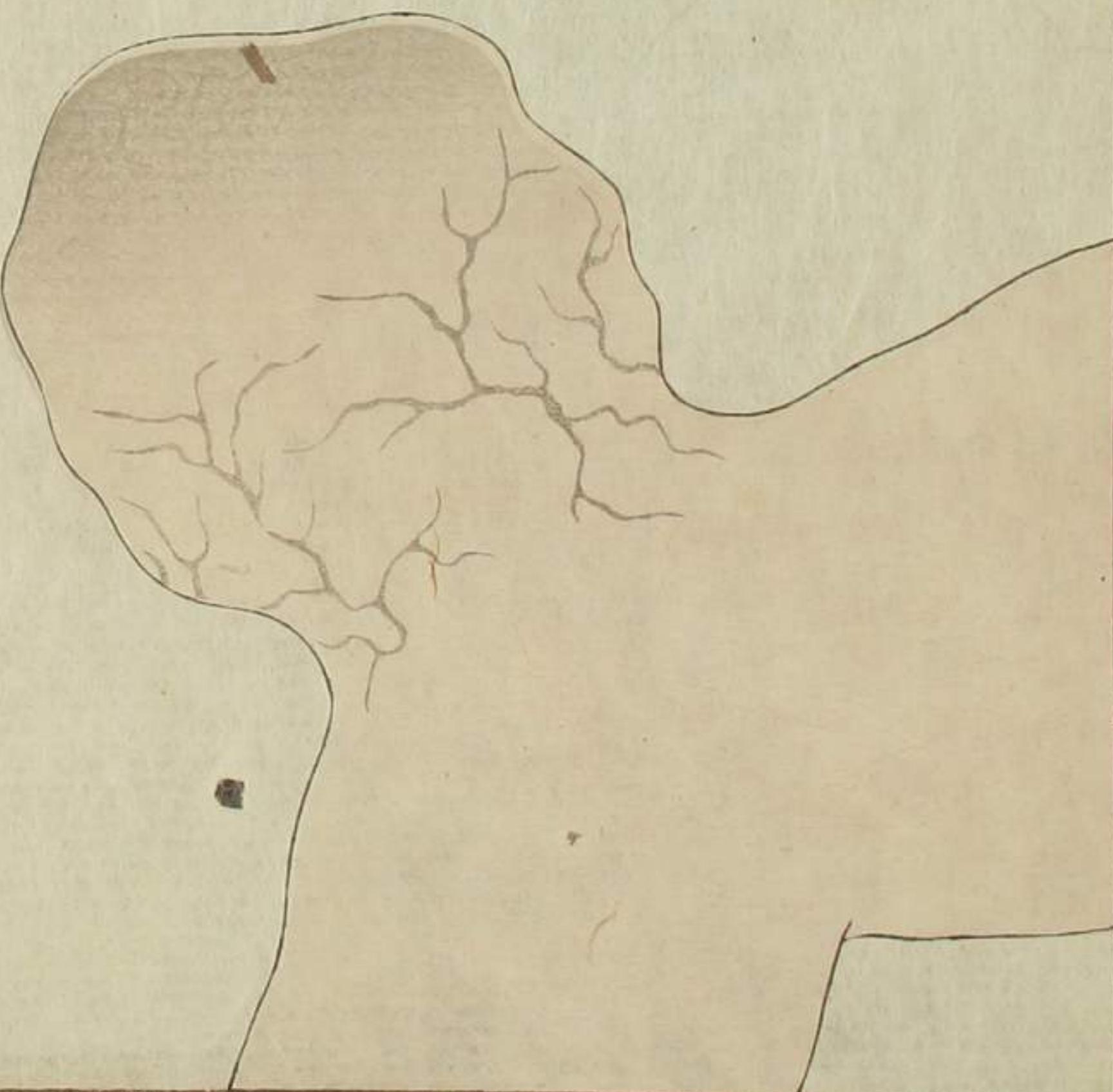
長強附贅圖

長強附贅大如併指。長  
三寸餘。稀疎生毛。宛似  
狗尾。蓋亦癰瘤之類。



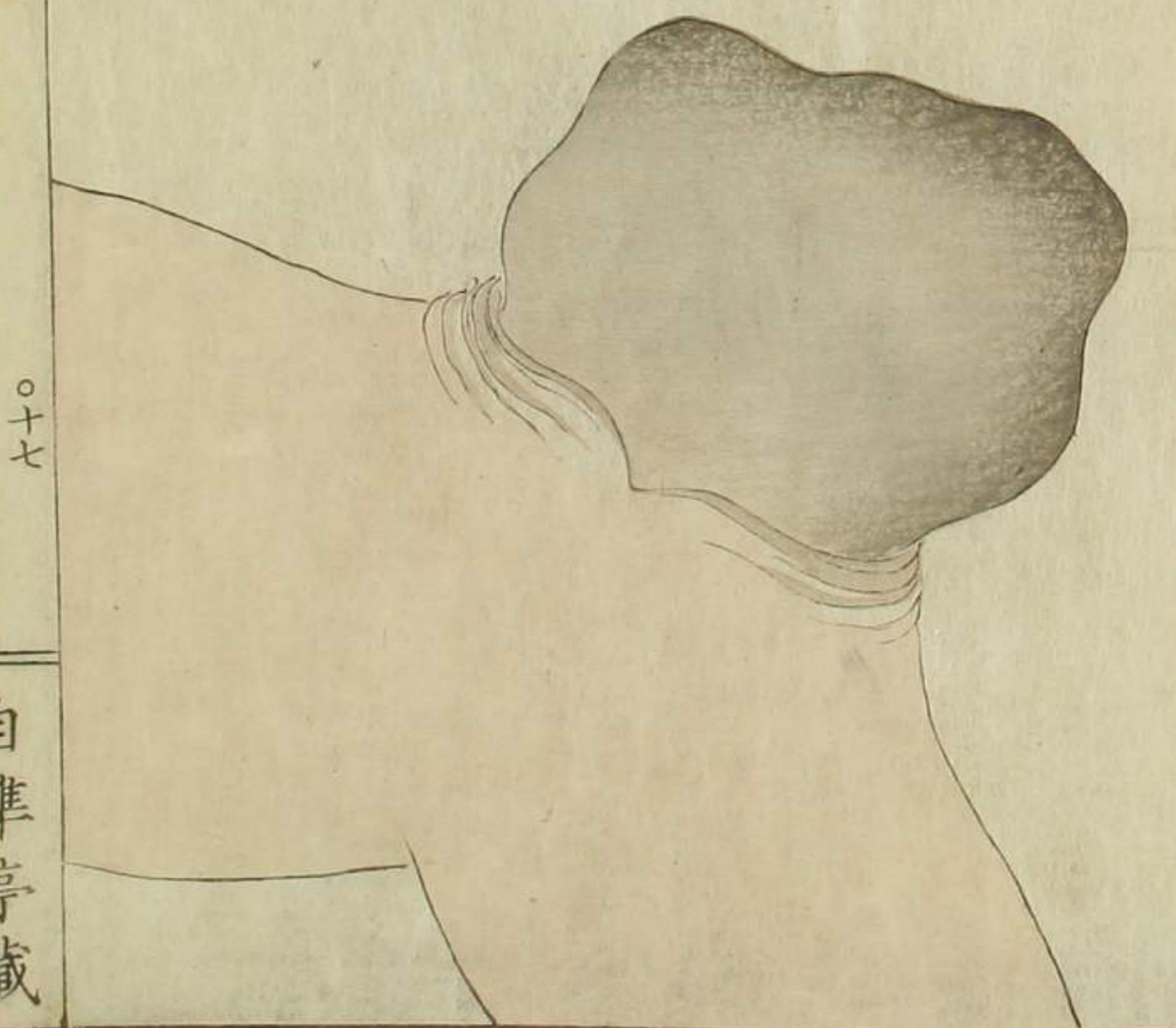
血瘤圖

瘤頂凹凸。硬軟  
相交。青脈盤曲。  
如蚯蚓。



其二圖

誤破血瘤。  
皮膚褶疊。  
瘤尚膨脹。  
紫暗如蚯。



其三圖

敷施烙鐵。  
腐肉脫過  
半瘡心成  
凹。



枯筋箭

枯筋箭ハ俗ニウホノレト云フ古ヨリ筋ノ病ナリト  
云ヒ傳テアレ氏實ハシカラス重繭疣目イホノ類ニテ肉  
ノ頑硬ニナリテ發スル病也初メ一點ノ頑肉微ニ高  
クナリ大サ豆ノ如クニシテ知覺ナク瘡頭疊鬆枯槁  
ニナリ寃モ疣目ノ如クニシテ高カラス多クハ手足  
ニ發シ大害ハナケレ氏常ニ邪魔ニナリ或ハ歩行ヲ  
妨クルトアリ○治法小患ナレ氏根ノ深キモノニテ  
治療ヲ加ヘテ一旦愈タルヤウナレ氏日ナラスシテ  
再發スルモノ也得ト瘡根ノ除キ去ルヤウニ術ヲ施

スヘシ先ツ猛汞油ヲ點シ遊英ニテ蓋ヘハ腐リテ脱  
シ去ル也又反剪刀ニテ剪ミ去リ跡ヘ猛汞油ヲ貼ス  
レハ益佳ナリ

枯筋箭主治方

猛汞油 遊英

黒子

黒子ハ俗ニボク凹ト云フ多ク面部ニ發スルモノ也  
相者ノ方ニ黒子ノ出タル位置ニテ吉凶ヲトル法  
アリ漢ノ高祖ハ左ノ股ニ七十二ノ黒子アリテ七十  
二戦ヲ為シ黒子モ亦七十二戦ニ從テ消タリト史記  
ニ載タリサレハ黒子ニモ吉凶ノアルヲ必定也皮膚  
ニ墨ヲ點シタル如ク平塙ニ出ルヲ常式トス或ハ高  
ク突起シテ疣目ノ如クニナルモノアリ是ハ翻花ス  
ルヲアリ婦人女子ノ輩モ目ノ下ニ出タルハ泣黒子  
也ト云テ漫ニ藥ヲ點シ灸ヲ炷テ翻花瘡ニナルモノ

アリ謹ヘキト也。○治法先ツ遊英ヘ黒子ノ大サニ小孔ヲ穿チ孔ヨリ黒子ノ見ル、ヤウニ貼ス是ハ藥ノ外ヘ附ヌヤウニスル手段ナリ猛汞油ヲ麻子一粒ホト黒子ヘ點シ其上ヲ又遊英ニテ蓋フ寸ハ一夜ニシテ黒子腐リテ脱スルナリ又精製ノ猛烈水ヲ點スルモ乍チチリミト染入テ一二日ノ内ニ脱スルモノ也又セツトシニテモ灰米膏ニテモ腐脱スルモノ也。

黒子主治方

槐木煎トトコ春林主治癌麩鼻痔及久瘡息肉。

槐木

右一味枝葉共ニ燒テ灰トナシ大ナル竹筒ヲ切リ節ヘ小孔ヲ穿チ吹筒トキダノ如ニシテ灰ヲ筒中ニ填チ沸湯ヲ灌ク寸ハ稀水孔ヨリ滴ル、ナリ其水ヲ磁鍋ニテ煎熬シ膠鉛ノ如クニナルヲ度トシテ火ヲ下シ磁器ニ入レ密封シ貯フ

灰米膏

正宗

用成塊火灰減水調稠。將白川米挿入灰內留半米在外片時許候米熟用米點癌上癌可落矣

遊英

猛汞油

猛烈水

瘡麤

瘡麤ハ俗ニ「アザ」ト稱ス是ハ先天ノ遺毒ト見ヘテ生  
レナカラ發シテアルモノナリ初ハ至テ微シク蚊刺カサシ  
タルホトノモノモ日ヲ累子月ヲ積ム寸ハ漸蔓延シ  
テ闊大ニナルモノ也初生ノ兒ハ得ト改テ若シ瘡ノ  
アルモノハ速ニ治法ヲ施スヘシ瘡ニ赤黒ノニ證ア  
リテ赤瘡ハ臍脂ヲ抹タルヤウニ赤ク發スルナリ先  
ハ平塌ニシテ皮膚ト均シク出ツ或ハ皮膚ヨリモ一  
段高ク發スルモノアリ是ハ瘡ノ上ニ毛ヲ生スルコ  
アリ黒瘡モ赤瘡ト同様ニテ平塌ニ出ルト一段高ク

發スルトノニ證アリ純黒色ニテ濃墨ニテモ塗タル  
ヤウニ出テ或ハ淡黑色或ハ藍色或ハ藍汁ヲ潑タル  
ヤウニ班ミト散漫テ出ルモアリ余カ郷某ノ兒生レ  
ナカラ遍身及面目マテモ黒瘡及紫瘡ヲ發シ班ミト  
文ヲ成スト駁馬ノ如シ又瘡上ニ細毛ヲ生セリ是又  
瘡中ノ奇證也○治法二寸以下ノモノハ治スヘクニ  
寸以上ノモノハ治スヘカラス瘡ハ如何ホトノ神丹  
ニテモ内服ニテハ治セス外用モ亦一通ノ藥ニテハ  
中ミ治セス腐藥ヲ用フルノ外決シテ手段ナシ腐藥  
ヲ用フルニ至極功者ノ入ルト也微シク點スル寸ハ  
能ハス

瘡麰主治方

猛汞油

ヤ工夫メシテ革ヲニ火モ故モ夫第ヤモ「モ骨矣  
ヤ大ニ瘻敷キ歟ミ皆モ瘻ヘナリシモナリ余ヘ此  
脉筋致シテ必再癒ス後ヒ螺丸山中ハ新モ癰消シ

血癥

血癥ハ即チ赤癥ノ類ナリ高ク起テ齧肉トナリ色紫  
赤ニシテ覆盆子ニ似タリ皮甚薄クシテ少シ物ニ觸  
レハ出血スルモノ也初發ハ小ニシテ銃丸ノ如キモ  
漸大ニナリテ覆椀ノ如クニ至ルモノアリ或ハ誤治  
シテ翻花スルコアリ○治法物ニ觸テ出血スルヲ姑  
ク止ルニハ龍骨ノ末ヲ搽ヘシ先ツ涼血地黃湯ヲ與  
ヘ猛汞油ヲ點スル寸ハ腐レテ脱スルナリ初生ノ兒  
ニ發シテ軟綿<sup>ヤロウガ</sup>ナルモノハ食塩精ヲ點スレハ自ラ老<sup>カタ</sup>  
結テ脱ス大ニシテ覆椀ノ如キモノハ糸ヲ金創針ニ

貫キ甲乙二條ト為シ癌ノ根蒂ヨリ穿チ糸ヲ貫キ乙  
條ノ兩端ハ左邊ニ相合シテ緊繫シ甲條ノ兩端ハ右  
邊ニ相合シテ緊繫スル寸ハ癌乍チ色ヲ變シ自ラ腐  
敗シテ脱スル也脱シテ後若シ根蒂ノ殘ルモノハ猛  
汞油ヲ點スヘシ始終涼血地黃湯ヲ服スルヲ佳トス  
又辰砂礬石ノ二味ヲ研末シ糊ニ化シ煉テ條ト為シ  
乾シ先ツ癌ヲ針ニテ刺シ針口へ條ヲ挿ス寸ハ腐敗  
シテ脱ス

血癌主治方

涼血地黃湯正宗治血箭血癌內熱甚而逼血。妄行出血

如飛者

黃連

當歸

生地

山梔

玄參

甘草各等分

水二鐘煎八分。量病上下服之。

猛汞油

食鹽精

血瘡圖



失榮

失榮ハ乳岩舌疽ナトノ類ニテ即翻花瘡也多クハ老人ニ在リ頸項及ヒ耳ノ前後ニ生ス初起ハ微ニ腫レテ皮色變セス日ヲ累子月ヲ積ニ従テ漸大ニナリ堅硬石ノ如シ其根蒂ハ深ク筋骨ニ結ヒ着キ少シモ運轉セス其形状ハ癰瘤ノ類ニ似タレモ自ラ異ルノ候アリ半年或ハ一年ニ至レハ微ニ陰痛ヲ發シ頑腫愈高クナリ初メテ紫色ニ變シ自ラ破爛シテ臭穢ノ稀水ヲ流シ遂ニ翻花シテ蓮花ノ如ク其毒咽喉ヘ波及シテ大ニ腫レ飲食ヲ妨礙シ又液下ヘモ流注シテ核

ヲ結ヒ氣血漸々ニ衰ヘ顔色萎黃ニナリ肉脱骨立シ  
徃來寒熱ヲ發シ或ハ盜汗咳嗽等モアリテ殆ト勞瘵  
ノ如クニナリテ死スル也或ハ至極老衰シタル者ハ  
硬腫因循トシテ消散モセス色モ變セス自潰スルノ  
勢モナク但肉爛骨立シテ死スルモノアリ或ハ失榮  
ヲ耳下ニ發シ其毒流注シテ腋下及ヒ左右ノ腿夾縫コロトコロ  
ヘモ梨子大ノ核ヲ結ヒ堅硬磊落ニナリタル者アリ  
或ハ失榮直ニ腋下ニ發シ大サ拳ノ如ク日晡寒熱ス  
ルト瘡ノ如キ者アリ何レモ遂ニ勞状ヲ成シテ死ス  
○治法此病ハ千古ヨリ不治ノモノニ定メテアレハ

予モ亦未タ全ノ良策ヲ得ス外科正宗ノ和榮散堅  
丸飛龍阿魏化堅膏ノ二方モ姑ク命ヲ緩フスルノ手  
段ニテ根治スルノ法ニ非ス師家ニテ十全流氣飲ニ  
夏枯草煎ヲ兼用トシテ治シタルモノアリト云ヘリ  
夏枯草煎ハ奇驗ノアル方ナレハ左モアルヘシ余モ  
試タレ凡至テ少キ病ユヘ未タ治シタルモノヲ見ス  
然レ氏百人ニ一人ヲ救フヲ得ルモ仁ノ一端ナレ  
ハ此上モ多ク驗ムヘシ初發微ニ硬腫スルモノハ十  
全流氣飲或ハ仙方散聚飲ニ夏枯草煎ヲ兼用トスヘ  
シ或ハ患鳩答丸ヲ兼用トス已ニ潰テ血水ノ滲流シ

身體ノ疲勞スルモノ八十全太補湯補中益氣湯等ヲ  
撰用スヘシ

失榮主治方

和榮散堅丸正宗治失榮證。堅硬如石。不熱不紅。漸腫漸大者。

歸身 熟地 茯神 香附 人參

白术 橘紅各二錢 貝母 南星 酸棗仁

遠志 柏子仁 丹皮 龍齒

一對若無龍齒鹿角二兩煅代

之 蘆會 角沉各八錢

硃砂六錢為衣

右為細末。煉蜜丸桐子大。每服八十九。食後用合歡樹

皮煎湯送下

飛龍阿魏化堅膏正宗十全流氣飲 夏枯草煎

仙方散聚飲 悉鳩答丸 十全太補湯

失榮圖



委中毒

委中毒ハ宋ノ竇漢卿ノ瘡瘍經驗全書ニ其名ヲ載セテ其證候ヲ言ハス但紫蘿流氣飲敗毒流氣飲ノ二方ヲ舉テ主劑トス何レモ通氣ノ劑ナレハ病因ハ滯氣ト為シタルナルヘシ證治準繩ニ往來寒熱膝後膚内約紋中堅硬如石微紅微腫此名委中毒此穴在膝後摺紋中屬太陽膀經由臟腑積熱流入膀胱而發用八陣散下瘀血斗計而消若治之稍遲潰則筋縮必成廢疾ト云ヘリ醫宗金鑑ノ說モ準繩ニ本キテ速ニ宜活血刺委中ト云ヘ又註ニ治宜速用活血散瘀湯逐下惡血ト云

テニ書ハ瘀血ト為シテ破血ノ劑ヲ專用トス其見識  
モ同カラス其說モ詳ナラス其上希有ノ疾ニヘ後學  
ノ者ハ診法ヲ會得シ難シ青洲老翁ノ遺教ニ委中毒  
ハ千古不治ノ證トス初發委中堅硬ニシテ石ニ似タ  
リ日已ニ久シクシテ初メテ紫暗色ニ變シ突腫シテ  
自ラ潰ヘ稀水ヲ滲流シ臭穢近ツクヘカラス潰ヘテ  
後却テ大ニ腫レ疼痛ヲ發シ往來寒熱モ作リ膝頭ノ  
肉脱シテ削り去ルカ如ク身體モ亦羸瘦シ疲勞日ニ  
加ヘテ遂ニ死スト云ヘリ余カ壁診スル處モ師言ニ  
符合セリ諸證乳岩ト同クシテ翻花状ヲ為ス者ナリ

竇漢卿力滯氣ト為シタルヲ確論ト謂ツ可シ○治法  
初發未タ潰ヘサルモノハ紫蘿流氣飲敗毒流氣飲十  
全流氣飲ヲ撰用シ神水膏ヲ摩擦スヘシ潰ヘテ後ハ  
神功内托散十全太補湯ヲ撰用シ中黃ヲ貼スヘシ中  
ニハ大黃牡丹皮湯ヲ用フル證モ有リト師ノ物語リ  
ナリ

委中毒主治方

紫蘿流氣飲瘡癆治委中毒

紫蘿 厚朴 甘草 香附 烏藥  
梔榔 杜仲 木瓜 枳殼 桔梗

川芎 防風 當歸

薑三棗一空心服

敗毒流氣飲 同治委中毒

紫蘿 厚朴 枳殼 桔梗 陳皮  
烏藥 白芍 白芷 香附 檀榔  
木香 木瓜 牛膝 杜仲 防風  
甘草

薑三棗一煎服

十全流氣飲正宗神功內托散 十全大補湯 大黃牡

丹皮湯 神水膏

溺死

溺水ハ水ヨリ救テ身體ヲ熟視スルニ肛門洞ホカラカニ開ク  
竹筒ノ如クニナリテアルモノ也世人此ノ状ヲ見テ  
水虎ニ肛門ヲ脱レタルナリト云ヒ傳フ醫者モ實事  
ノヤウニ心得テ居ルモノアリ捧腹絶倒スヘキ丁也  
實ニ左様ナル丁ナラハ肛門ヨリ殘血ノ滴ル、丁モ  
アリ腹候ニモ言分ノアルヘキ丁ナレ氏遂ニ其證候  
ノアル者ヲ目擊セス一兒年十一歳偶混堂ニ溺レテ  
死セリ余就テ診視スルニ是レモ肛門洞ニ開テ水ニ  
溺レテ死スルモノ、如シ左レハ溺死スルモノハ必

ス肛門ノ開クモノト見ヘタリ蓋シ陽氣ノ虛脱スル故ナルヘシ下利ヲ患フルモノ、死ニ近クナレハ肛門ノ洞ニ開クト同理也驚風血暈ノ類ニテ衝心スルモノ牙關緊急シテロヲ閉ルモノハ必ス蘿生シ牙關緩弛シテロヲ開クモノハ必ス死スルノ意味ヲ考テ知ルヘシ溺死ハ千古ヨリ水ヲ多ク飲テ死スルモノノヤウニ心得タリ故ニ諸方書ニ多ク吐水除水ノ法ノミヲ載セタリ溺死スル理ヲ考ルニ水ヲ飲テ死スルニハ非ス水ハ胃中一杯ニ満ルモ死スヘカラス縊死烟死ノ類ト同様ニテ氣道ノ閉塞シテ死スルナリ

病源候論ニ人為水所投溺。水從孔竅入灌注肺臟其氣擁閉。故死ト云ヒタルコソ確論也直ニ救タルハ治スヘク一時ハ勿論半時ニテモ水中ニ在リタルハ決シテ団生スルヲナシ譬ハ通紅ノ火ヲ壺カツ中ニ入レテ蓋ヲスレハ火乍滅キエテ黒クナルモ直ニ蓋ヲ去テ扇キ或ハ吹ク寸ハ乍火ニ復スル也若シ時ヲ移シテ火氣絶ツ寸ハ決シテ火ニナラサルカ如シ溺死モ陽氣ノ伏シタルハ団生スル理ナレ凡陽氣ノ全ク絶シタルハ復スルノ理ナシ○治法第一ニ吐水ノ術ヲ施スヘシ其法溺者ヲ仰卧セシメ醫溺者ノ首ヲ跨ハダマキテ立膝ニ

ナリ両手ノ魚腹ヲ溺者左右ノ不容ノ穴ニ當テカヲ  
極メテ緊ク壓ス寸ハ停水乍湧出スル也次ニ活ヲ入  
レヘシ此法余カ門ノ秘術ニシテ口授面命ニ非サレ  
ハ傳フルト能ハス余春林軒ニ寄寓スルノ日隣兒池  
中ニ溺ル家人走テ此レヲ救フニ六脉已ニ絶シ氣息  
モ亦全ク絶チ唇舌刮白ニナリ遍身厥冷シ復スヘカ  
ラサルニ似タリ以上ノ法ヲ施シテ回生セリ又法大  
艾炷ニテ臍中ニ灸スヘシ又法溺者ヲ倒懸ニシテ臍  
中ノ垢ヲ挑ケ去リロヲ歛メカヲ極メテ両耳ヲ吹ク  
ヘシ又法溺者ヲ倒懸シテ好酒ヲ鼻中へ灌クヘシ又

鼻中へ白礪ノ末ヲ吹キ若クハ苦酒ヲ灌クノ法アリ  
又法合谷針ヲ以テ合谷曲池人中ヲ刺スヘシ阿蘭陀  
ハ觀臟窮理學ヲ詳ニセシ故早ク氣ノ附キテ呼吸ノ  
閉塞シテ死スルヲ云ヘリ其術ニ氣道ヲ穿貫シ吹  
テ呼吸ヲ發セシムルノ術アリ又「タハクスキリス」テ  
「ル」ト云テ煙草ノ烟リヲ肛門へ吹キ入ルノ法ア  
リ其說及ヒ道具ノ圖「ーステ」ト云ヘル外科書ニ  
詳ニ載ス後ニ錦腸杉田翁「タハクスキリス」  
木造ニシテ用フルニ便ニス余モ此器ヲ請テ數驗ミ  
ルニ遂ニ功ヲ奏セス氣道穿貫ノ說モ面白キヤウナ

レ氏氣道ヲ穿テ久シク置ク寸ハ是レ斗リニテモ死スヘキ丁也此二術モ紙上ノ論ニテ實驗ノ術ニ非スト謂ツヘシ救溺ノ法ハ吐水入活ノ二法ニテ効ナキ者ハ決シテ圓生セス其外ノ方法ハ姑ク責メヲ塞クノミ

溺死主治方

吐水術 活術 艾灸 好酒 白礬  
苦酒 針術

石瘕  
石瘕ハ靈樞ニ出ツ婦人癥瘕ノ一證ナリ初發ハ大サ  
茄瓜ノ如ク漸大ニナルニ及テハ懷子ノ如ク石硬ニ  
シテ爪モ立ス微ク凹凸磊落アリ日久キ寸ハ虛勞ニ  
變シテ死ス又鼓脹ニ變シテ死ス余力舊里某ノ妻產  
難ノ時一產科ヲ引テ圓生セリ無理ニ出シタルト  
見ヘテ陰中及ヒ膀胱マテ損傷シ小便陰中ヨリ出テ  
日夜滴瀝トシテ止ス數月ヲ經ルニ及シテ小腹ニ塊  
ヲ結ヒ石硬ニシテ消散セス右脚ニ引テ急痛シ又陰  
中頻ニ痛テ刺スカ如シ一日陰中ヘ骨ノ如キ者突出

シタルトテ急ニ余ヲ迎フ余乃窺宮管ヲ陰中へ入レ  
テ熟視スルニ一塊ノ白石胞中ニ有テ僅ニ稜角ヲ露  
スノミ探宮シテ除キ去ラント欲スレ压深フシテ撮  
ミ難シ又錐ヲ刺シテ孔ヲ穿チ鈎ヲ錐口ヘ掛テ引ク  
ニ石塊脫然トシテ出ツ大サ鴨卵ノ如ク橢圓ニシテ  
微ニ稜角アリ其質秋石淋石ニ同シ鋸開シテ其中ヲ  
見ルニ一撮ノ舊綿絮アリ因テ考フルニ小便滴瀝ス  
ルユヘ舊綿絮ヲ陰門ノ捻ニ入レ少ク宮中ニ殘リ其  
ヘ小便ノ注キタルユヘ滓淀凝結シ漸々ニ層疊シテ  
石ト成リタルナルヘシ是モ癥癖ノ類ナレハ姑ク石

瘕ニ屬シテ可ナリ再按スルニ是モ酢答ノ類ナルヘ  
シ酢答モ馬ノ癥癖ナリ鋸開シテ其中ヲ見ルニ必ス  
馬糞ノアルモノナリ或ハ折レ釘ノ出タルモノアリ  
門人烏山ノ侍醫川又玄珍ノ藏スル所ノ酢答ハ尤奇  
品ナリ大サ越爪ノ如ク藁ノ着キタル慶アリ又孔ニ  
ナリタル慶ヨリ窺キ視ルニ中ハ完テ馬糞ナリ左レ  
ハ凡ソ腹中ヨリ出ル石ノ類ハ一筒ノ種ニ成ル物ア  
リテ其ヘ滓淀ノ凝結層疊シテ石トナルナルヘシ癖  
石モ此類ニテ必スシモ思慮ノ凝テ石ニ成リ癥癖ノ  
遂ニ石ニ變スルニハ非ス門人上田侍醫林脩庵ノ物

語リニ同藩某ノ妻脇下ニ癰癖アリ後ニ大便ヨリ小石ヲ下ス丁約スルニ六十餘顆ニシテ癰癖モ又從テ消散ス其石小ナルモノハ菽ノ如ク大ナルモノハ棗ノ如シ形方頭圓尾ニシテ大小共ニ同形ナリ石一箇ヲ携ヘ來テ示ス色白ク微ニ黃色ヲ帶ヒテ潤澤アリ軟毳輕鬆ニシテ崩レ易ク膚ハ畧酢咎ニ似タリ是モ石瘕ニ屬スヘシ○治法靈樞ニ所謂石瘕ハ癰癖ノ一證ナレハ烏苓通氣散桂枝茯苓丸等ヲ撰用スヘシ實ニ石ヲ結ヒタル者ハ在所定マラサレハ療治ニモ亦一定ノ法ナシ臨機應變ニ療治ヲ工夫スヘシ

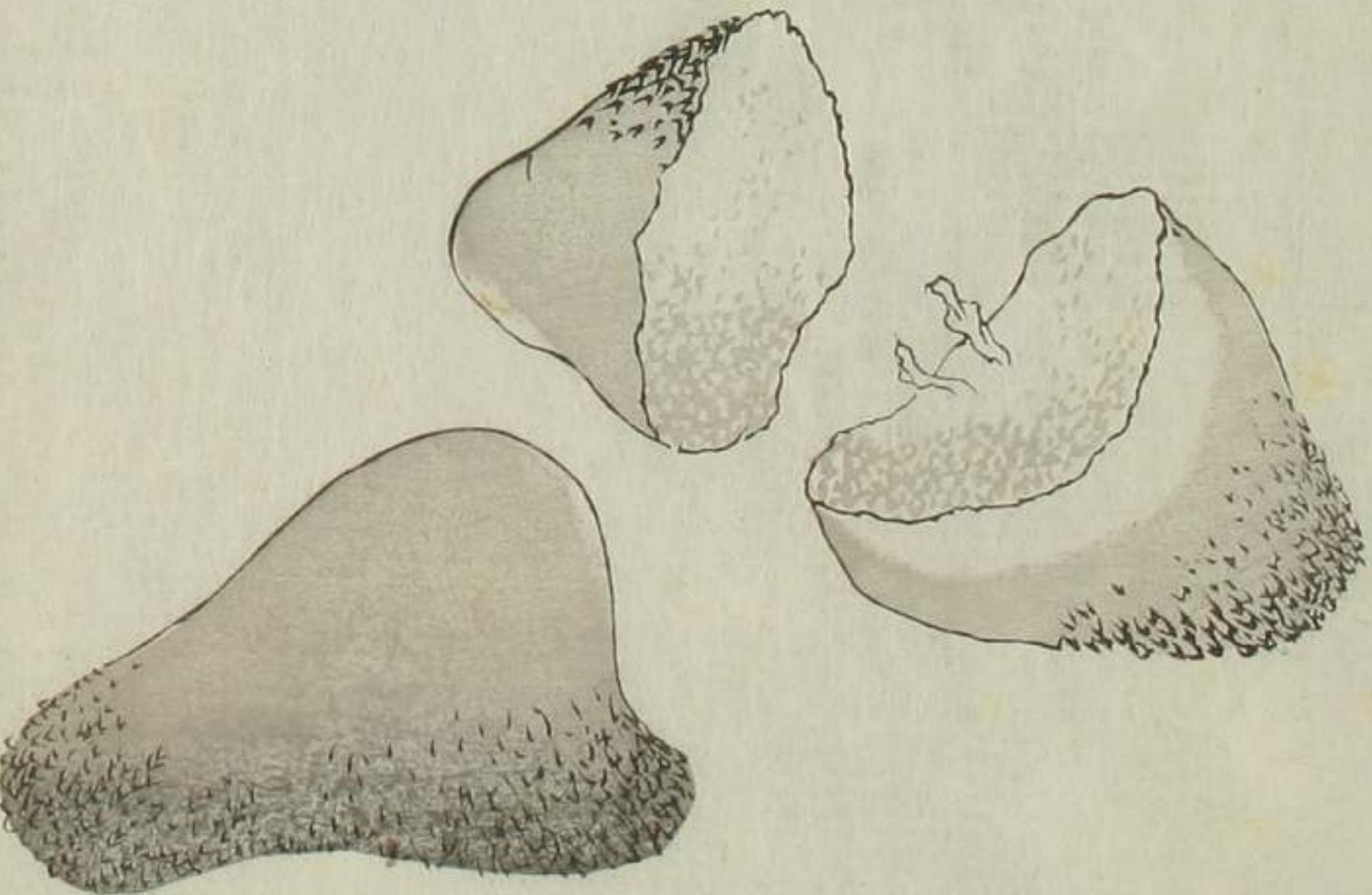
石瘕主治方

烏苓通氣散

桂枝茯苓丸

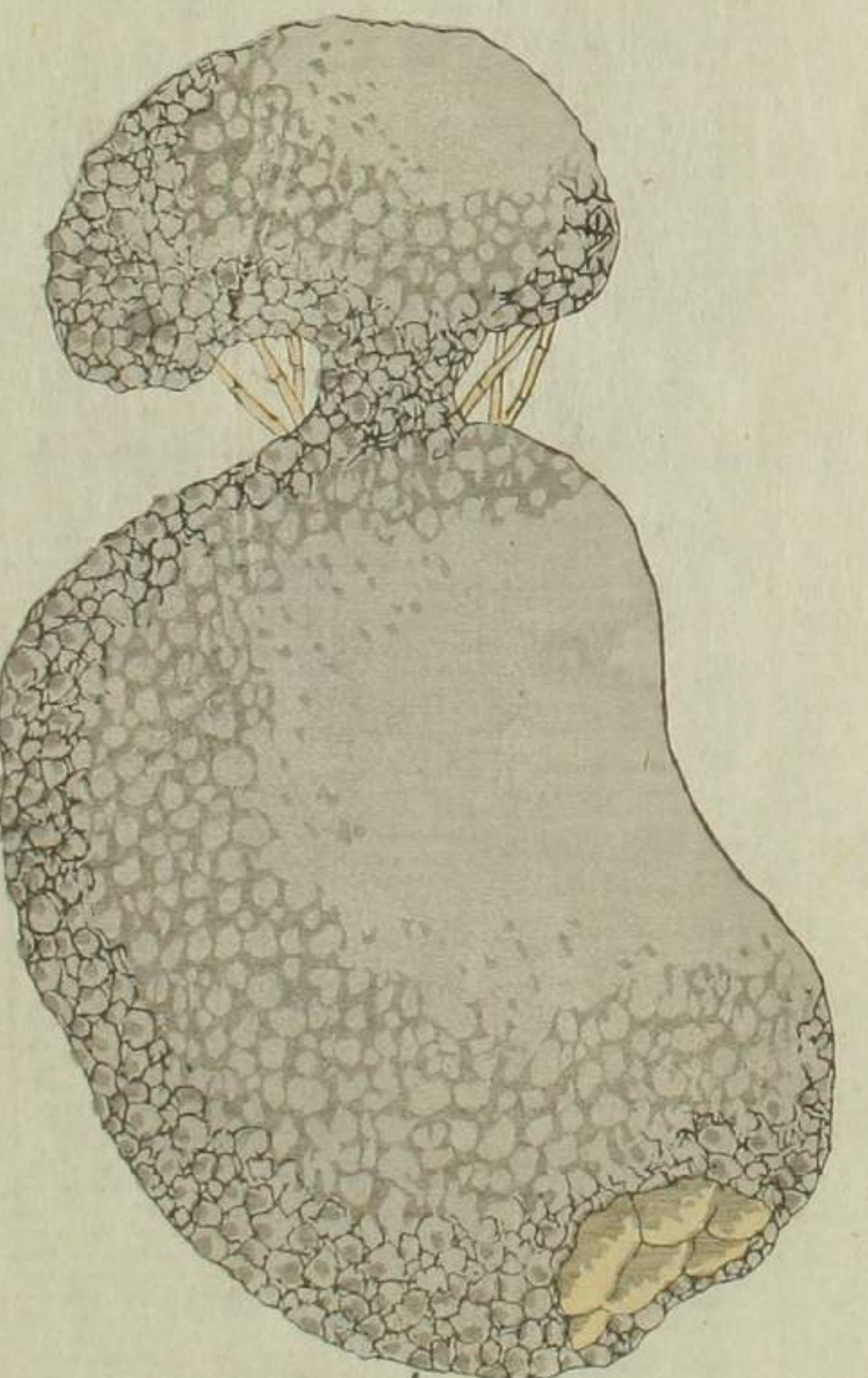
石瘕圖

其石如鮓答及淋石。  
鋸開視之。有一撮舊  
綿絮。蓋是為胚胎之  
所由。



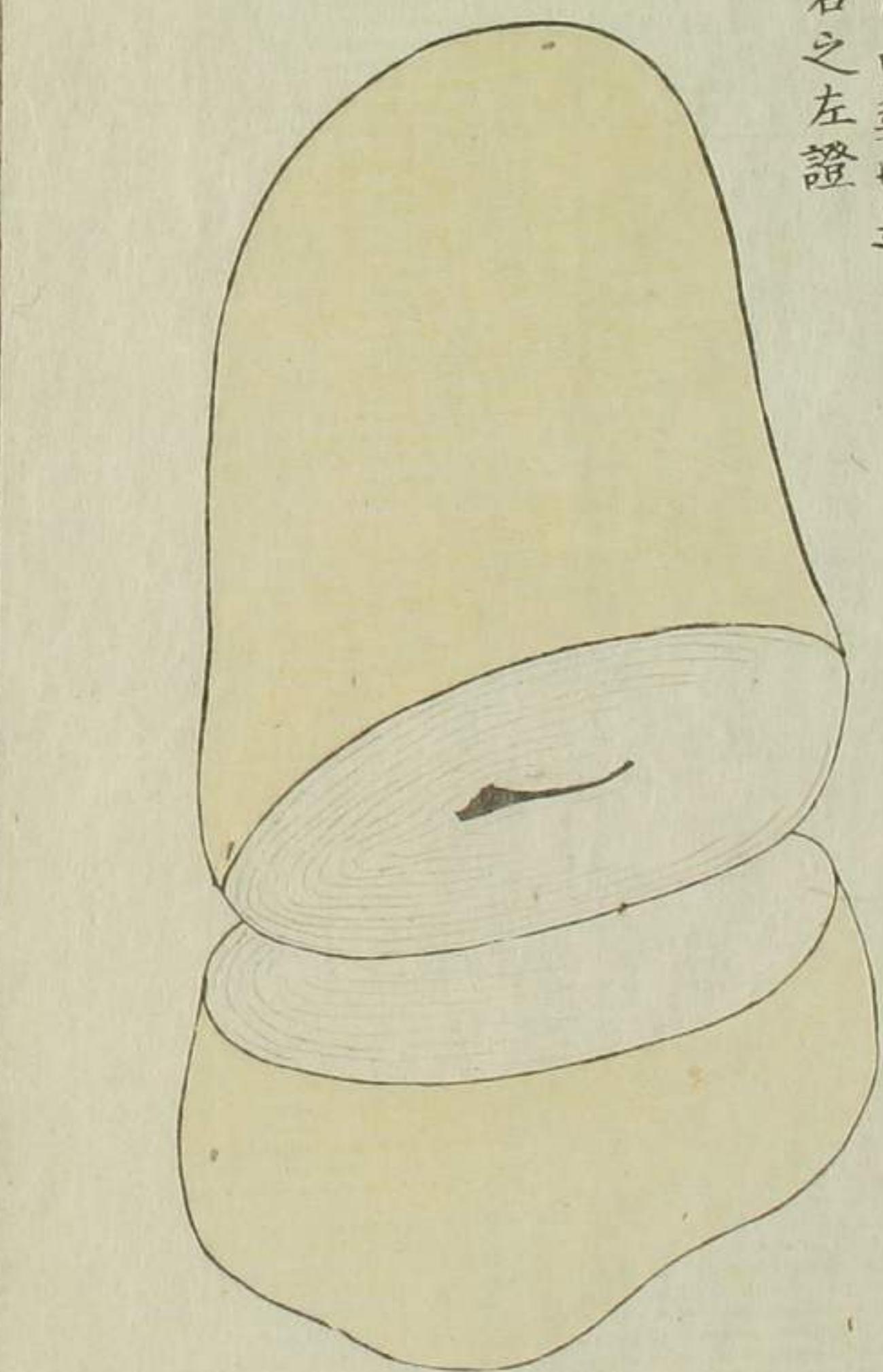
鮓答圖

河玄珍所藏  
尤為奇品。蓋  
芻豢之淳淨。  
包屏連藁。層  
疊成之。由之  
攷之。亦足以  
知石瘕癖石  
之起原。故併  
圖此。



鮓答圖

半截鮓答。中有序鐵蓋。  
與前圖包屎連葷同。所  
以鮓答之因而起也。是  
亦石瘕癥石之左證。



小便閉

小便閉ハ金匱ニ轉胞ト云病因ヲ胞系了戾ト說タリ  
此病人根因ヲ知リ療治ヲ施スニハ膀胱尿道ノ位置  
官能ヲ詳ニ識ルヲ肝要トス今ハ阿蘭陀學ヲ講スル  
モノ多ク内景書モ數種翻譯ニナリ世ニ行ル、ユヘ  
初學ノ者モ内景ヲ口實トスレ氏實物ニ就テ驗ミサ  
レハ療治ニ臨テ用ヲナサス余ハ活物窮理ノ學ヲ受  
ケテヨリ何事モ實測ヲ專務トス觀臟モ再三ニ及ヒ  
テ畧内景ノ大概ヲ識ルト得タリ膀胱ノ形ハ壠<sup>トク</sup>ト  
倒懸スルカ如シ膀胱ト尿道トノ相接スル處ヲ膀胱ノ

下口ト云フ此處ハ胃ノ下口ナト、同様ニテ閉閉ノ機能アリ小便盈ツル寸ハ自ラ開キ小便盡ル寸ハ自ラ閉ツ男子ハ直腸ト表裏ヲ成シ女子ハ陰門ト表裏ヲ成ス女子ノ尿道ハ太シテ短ク男子ノ尿道ハ細クシテ長シ故ニ女子ノ小便閉ハ少シテ輕ク男子ノ小便閉ハ多クシテ重シ此病ノ根因ヲ考フルニ多端アレ正第一ニ尿道中ヘ物ノ壅滯シテ閉ツルトアリ或ハ癥瘕懷子ノ類ニテ外ヨリ壓ヒテ閉ツルトアリ或ハ筋脉攣急シテ閉ツルモノアリ或ハ焮腫熱痛シテ閉ツルモノアリ或ハ麻木不隨ニテ閉ツルモノアリ

膿淋石淋ニテ閉チタルハ一旦ノノニテ其時通スレハ後ハ快利スルモノナリ久シク淋ヲ患ヘ裏血已ニ盡テ後但小便ノ淋瀝澁滯スルモノ寒暑ヲ侵シテ小便ノ閉ツルトアリ是ハ尿道中ヘ常ニ息肉ヲ生シ時候ニ觸レテ腫レヲ發シ小便ノ閉ツル也尿血ニテ閉ツルハ瘀血ノ尿道中ニ凝滯スル也故ニ強テ努カ出セハ瘀血蚯蚓ノ如クニナリテ出ルモノ也是等ノ證ハ皆物ノ壅滯シテ發スル也婦人妊娠臨月ニ至リ胚胎下ヘサカリテ尿道ヲ壓シ小便ノ閉ツルトアリ又腸瘻痔漏及ヒ癌癥積聚ノ類ニテ小便ノ閉ツルハ皆

外ヨリ物ノ尿道ヲ癃ス故ナリ常ニ小便白濁ヲ患フ  
ル者卒ニ小便閉チ小腹急脹シテ鞠ノ如ク測泡管ヲ  
挿シ入テ一旦ハ小便出レ凡少腹ノ緊滿ハ減セス遂  
ニ不治ニ至ルモノアリ老人ニ多シ素ヨリ疝ノアル  
モノ寒氣ヲ冒シ卒ニ心腹急脹シ大小便共ニ秘シテ  
一晝夜ホトノ間ニ死シ或ハ少腹急痛シ痛ニ陰筋ニ  
入り小便心甚タ頻數ナレ凡一黠モ通セス卒ニ死ス  
ルモノアリ是等ノ證ハ膀胱及ヒ尿道ノ攣急也或ハ  
誤テ會陰ヲ打チ尿道腫レ壅リ小便ノ閉ツルハ至極  
六箇敷モノ也又產後及ヒ腸瘍ノ類ニテ閉ツルハ焮

熱腫痛ヨリ發スル也大推或ハ長強ヲ打チテ總身ノ  
麻木不遂スル者及ヒ中風陰毒等ニテ小便ノ閉ツル  
ハ膀胱尿道マテモ麻木シテ開閉ノ機能ヲ失シタル  
也夫故小便滿ツレ凡格別ニ苦シマヌモノ也測泡管ヲ  
挿シテ一旦快利スルモ又閉テ故ノ如クニ膨脹シ  
又挿スモ亦從テ閉チ後ニハ強ク少腹ヲ押セハ自ラ  
通スルヤウニナルモノ也是モ難治トス○治法猪澤  
芩木等ノ利水ノ藥力ニテ中々通スルモノニ非ス愈  
與ヘテ愈苦シムノミ但下劑ヲ與ヘ暴瀉スル激勢ニ  
テ小便ノ通スルヲアリ先草兵丸遂將丸等ヲ與フヘ

シ此病ヲ救フ捷逕ノ良術ト云フハ測泡管也今ハ種  
種ノ物ニテ製スレ庄銀管ヲ第一ノ良品トス用法ハ  
先ツ患者ヲシテ倚坐セシメ尻ヘ小布團ヲ安テ枕ト  
為シ立膝ノ氣味合ニ鹽梅シ醫者ハ患者ノ前ニ就テ  
左手ノ掌ニ陰莖ヲ載セ右手ニ測泡管カテルヲ持リ津唾ニ  
テ潤シ尿口ヨリ徐々ニ挿入スレハ二三寸入りテ横  
骨ト覺フ處ニテ滯ルモノ也此時左ノ手ト共ニ微ク  
上へ揚ケ測泡管ノ尖サギノ會陰へ向クヤウニ鹽梅シテ  
入ルレハ能通ルモノ也五六寸入りテ又滯ルノアリ  
アリ是ハ會陰ヨリ膀胱へ轉スル處也其心得ニテ左

右ノ手ヲ微ク下ケ消息シテ入ル、寸ハ滯リナク入  
ルモノ也然レ庄尿道ノ擊急シタル證ニハ測泡管粘  
着シテ入り難ルモノナリ強テ衝ク寸ハ測泡管會陰  
ノ間ニ蟠ルモノ也抜ク寸ハ必ス出血シ測泡管モ損  
傷シテアルモノナリ家嚴研堂先生ノ療治セシモノ  
ニ過日小便閉ヲ患ヒ醫測泡管ヲ挿入シテ後尿道刺  
痛小便淋瀝ス姑ク丙字湯ヲ與フルニ真鍮管ノ測泡  
管折レテ二箇トナリテ出タリ左レハ無理ニ挿入ス  
レハ折ル、ノアルモノナレハ慎テ誤リノナキヤ  
ウニ用フヘシ若シ膀胱マテ入り難テ小便ノ出サル

モノハ管ヲ口ニ含ミ一吹一吸シテ小便ノ出ツルト  
アリ又緩和煎ヲ大劑ニ作り尿道ノ通り及ヒ小腹ヲ  
温ムヘシ又臍下ヘ灸ヲ大炷ニシテ炷ルモヨシ又巴  
豆膏。田螺膏ノ類モ驗ムヘシ小便快利シテ後ハ證ノ  
寒熱ヲ辨シ猪苓加大黃湯。八味腎氣丸ノ類ヲ撰用ス  
ヘシ諸法術ヲ盡シテ小便ノ通セサルモノ及ヒ會陰  
打撲等ノ證ニテ測泡管ノ一切入ラヌモノハ四五日  
ニシテ必ス死ス此證ハ膀胱穿孔ノ術ヲ施スヘシ其  
法陰毛際ノ上ニ指横徑許ノ處ヲ柳葉針クシザツニテ刺シ跡  
ヘ管ヲ入レ小便ヲ去リテ姑ク急ヲ救ヒ後ニ尿道通

利ノ手段ヲ工夫シテ治セシモノモ亦少ナカラス

小便閉

巴豆膏叢桂治轉胞

巴豆五分 田螺肉一錢

右二味共搗キ和匀成膏シテ。一寸ハカリニ紙ヲ圓ク切膏  
ヲ傳ケ臍下一寸五分ニハルヘシ外ニ三寸ニ紙ヲ  
圓ク切りテ蓋フタニ貼ハシルヘシ痛ミ劇キハ尤驗アリ

田螺膏同治轉胞

田螺一箇 廉麝香少許

右二味共搗和匀成膏。用法如巴豆膏

八味腎氣丸 猪苓湯加大黃 草兵丸  
遂將丸

附、牛丸、土丸、大黃丸、甘草丸、木香丸、大黃丸

大便閉

大便閉ハ諸病ノ兼證ニシテ其因一ナラス瘟疫癰疽等ニテ大便ノ閉ツルハ熱ノ為ナリ腸瘻及ヒ痔漏ノ類ニテ閉ツルハ腸ノ腫レテ塞カル故ナリ翻胃膈噎ノ類ニテ閉ツルハ津液ノ枯燥スルユヘ也狂癇症及ヒ中風ノ類ニテ閉ツルハ氣ノ上衝シテ上部ニノミ盈キ下部ノ虛スルユヘ大便ヲスル機能ヲ失スル也此四因ヨリ起ル者尤多シ饑餓ノ時木ノ實或ハ稗粟ノ殼ヲ食シ大便秘結閉塞シテ難儀セシ者少カラス一種大便ノ不通ト半年或ハ一年ニ至テ飲食起居常

如ク少シモ滯リノナキモノアリー奇事也余力隣里某ノ女年十一歳大便二三月ヲ隔テ、一行シ或半年ヲ隔テ、一行ス來テ治ヲ問フ其儘舍置モ害ノ無キトヲ諭セ疋父母兔角ニ苦勞ニ思ヒ一醫ニ就テ治ヲ請ヒ峻下ノ劑ヲ服シ心腹急脹シテ卒死スト聞ケリ此事未タ中華ノ醫籍ニ載スルトヲ聞カス丹老子ニ一女歳二十餘疫後ナリシカ貞享三年丙寅四月八日ニ大便通シ明年ノ七月下旬マテ通セヌトヲ載ス行餘醫言ニモ大便ノ半年ニシテ一行或ハ一年ニシテ一行セシ者アリタルトヲ載セタリ太仲ハ瘤ノ

證トセリ左モアルヘキヤ又夏夜露卧シテ冷氣ニ傷ラレ或ハ冬時舟中及ヒ馬上等ニテ遠行シテ寒氣ヲ冒シ或ハ食傷ノ後卒然トシテ心腹急脹シ乍鼓脹ノ如クニナリ大便閉チテ一點モ通セス下劑ヲ與フレハ吐シテ少シモ下ラス愈用ヒテ愈苦シムモノアリ是レハ疝ニ屬ス内科秘錄ニ詳ニス又高キヨリ墮テ大推ヲ打チ或ハ長強ヲ衝キ總身不遂シテ少シモ知覺ナク大小便ノ閉ツルトアリ是レハ臓腑マテモ麻木シテ大便スル機能ヲ失ヒタルナリ必死トスヘシ○治法此證ヘ巴豆甘遂ノ類ヲ用ヒテハ仲景ノ軌範

ニ非ス滋潤シテ下スノ方ヲ用フヘシ調胃承氣湯麻仁丸ヲ撰用シ蜜煎導ヲ無用トスヘシ肛門ヨリ藥ヲ挿入スルノ方モ諸方書ニ色々載セテアレ凡皆不便宜ニテ用フルニ足ラス阿蘭陀家ノ灌腸術ヲ捷徑ノ良法トス若シ下劑ヲ與ヒテ通セサルモノハ強テ與フル寸ハ却テ大害ヲナストアリ此證ヘハ下劑ハ姑ク舍テ但灌腸法ヲ専用トスヘシ

大便閉主治方

灌腸方

天真治

大便閉

大麥

錢五

芒硝

錢三

蜂蜜

錢五

右三味先以水二合半煮大麥取二合去滓再煮芒蜜適寒溫以水銃注射殼道中

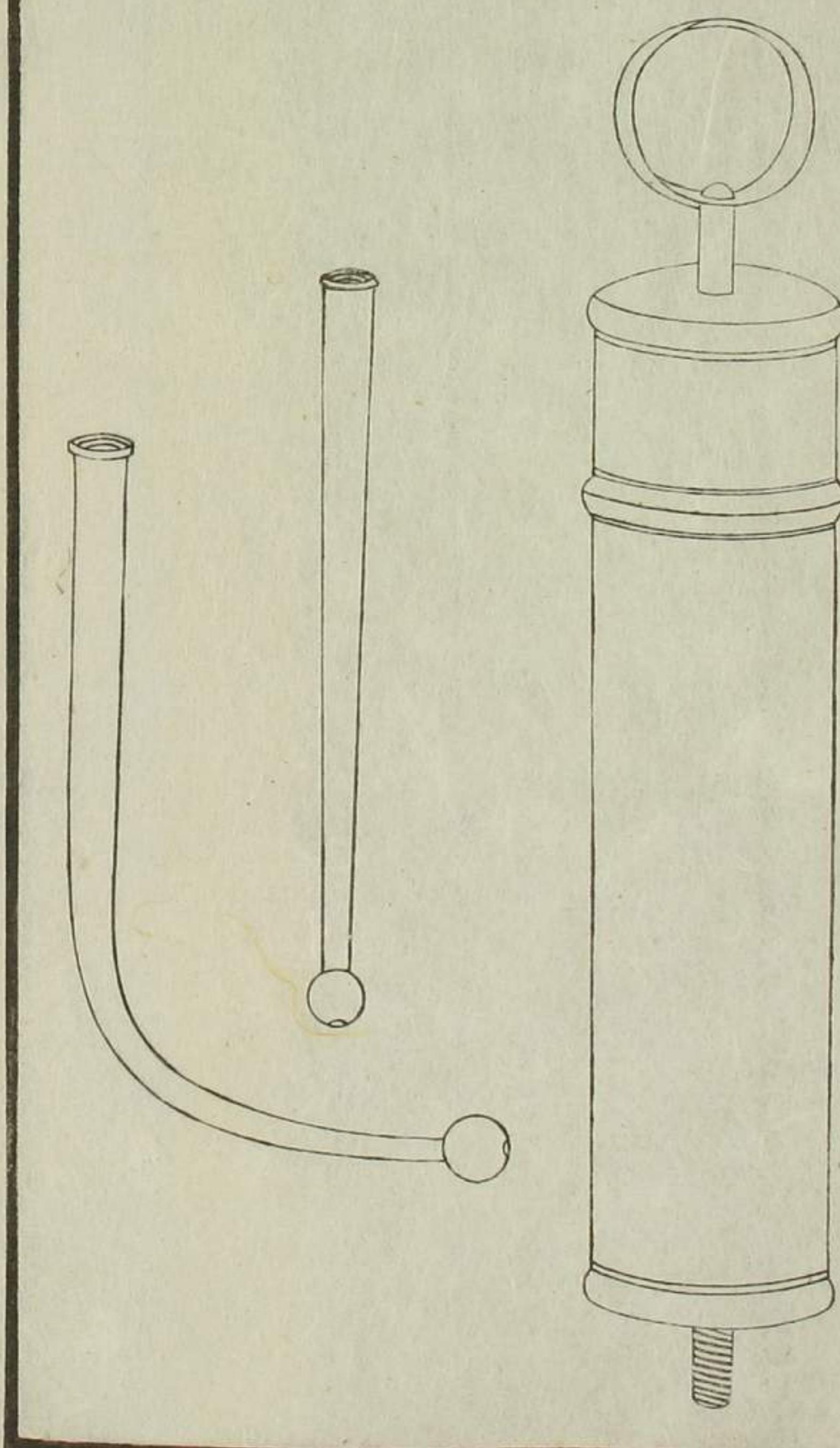
調胃承氣湯

麻仁丸

蜜煎導

并傷寒論

灌腸水銃圖



陰痿

陰痿ハ素問ニ出ツ肘后方ニ痿ヲ萎ニ作レリ即草木ノ萎テ不榮力如ク陰莖ノ痿弱シテ房事ノ出来又テ性質ノ小心ノ者律義ニ父母ノ教訓ヲ守リ少シモ花街柳巷へ立チ入ラス年ノ長スルマテ陰事ヲ知ラサルモノ或ハ奉公ナトラシテ久シク陰事ヲ絶ツ者俄ニ妻ヲ娶リ毎ニ房事ニ臨テ陰莖萎弱シテ少シモ用ヲ成サス或ハ纏ニ婦人ノ肌ニ觸ルレハ乍自カラ感シテ失精シ房事ヲ遂ルコノナラヌ者アリ五不男ノ一二テ是ヲ怯ト云真ノ陰痿ニアラス是ハ元來氣

ノ怯キ生レニテ殊ニ陰事ニ慣ハヌユヘ塲後ヲシテ  
痿弱スル也夫故獨卧スレハ常ノ如ク翹起スルモノ  
也真ノ陰痿ト云ハ陰莖常ニ麻痺不遂ノ氣味アリテ  
陰事ニ臨ミ纔ニ翹起スルモ乍チ痿弱シテ陰事ヲ遂  
ルト不能モノ也此證ハ疝ニ屬スルモノ多シ婦人ノ  
陰痿ハ房事ニ臨ミ陰中苦痒シテ用ニ堪ヘス多クハ  
難治トス○治法先ツ艶本ヲ多ク讀マシメ色情ヲ盛  
ニシ婦人ト日夜同居スルヤウニシテ触ク慣<sup>ナジ</sup>染シメ  
柴胡加龍骨牡蠣湯ハ味地黃丸ヲ與ヘ兼用ニ露蜂房  
一味ヲ細末トナシ蜂蜜ニテ煉リ好酒ニテ用フヘシ

其因疝ヨリ起ルモノハ烏芩通氣散ニ露蜂房ヲ兼用  
トスヘシ

陰痿主治方

柴胡加龍骨牡蠣湯   八味地黃丸   烏芩通氣散

露蜂房

瘍科秘錄卷之十大尾

弘化四年丁未仲冬

本間玄調著

摺版紙背其後 橫山町三丁目

和泉屋金右衛門

其因應事に就きノサムニテ書

玉巖堂藏梓目錄

東都兩國 橫山町三丁目 口和泉屋金右衛門

合刻四書

孝經解記片山兼山先生點  
大學中庸

全二冊

孟子正文

片山兼山先生點

金三冊

周易正文

同上

全二冊

禮記正文

同上

全五冊

周禮正文

同上

全三冊

論語考二編

宇土新先生著

全三冊

士新先生學問ノ該博ナルハ皆人知  
ル所ナリ此書ハ經傳子史凡ソ論語  
意ニ涉ルモノハ旁引曲証ソノ精詳ヲ  
極ム學者ノ考鏡ヲ資ケテ最モ裨益  
アルノ珍編トリ

論語一貫 斧山兼山先生著 全五冊

先生ハ近古最一ノ考証家ニシテ  
清朝諸大家ノ影響アリ元禄享保  
ノ學ノ謬誤ヲ一洗シテ一家ノ學ヲ  
ナス儒者必讀ノ書ナリ

趙註孟子 善菴朝川先生校點 全四冊

後漢人趙岐注脚ノ解入ル處宋ノ  
程朱以前ニシテ別ニ見處アリ新注  
ヲ讀ム人マツコレラ披覽セザルヘカラズ

皇清經解一班 岡田煌亭先生校點 全六冊附總目

原本一千四百卷其要ヲ摭採シテ此  
編トス其精確十九ト古今解經ノ翫  
楚ト云ヘキ書ナリ

七經劄記 岡田煌亭先生著 全三冊

周易尚書詩經左傳孝經論語孟子  
首卷總目内

仁說三書 錦城太田先生著 全二冊

洙泗仁說一貫明義仁說要義三書ヲ合  
刻スモノ也先生數十年ノ精力ヲ極メ發明  
凡處アリ此書ヲ著ス故ニ其説精詳確當  
ニア古今未發ノ秘蘊ヲ啓クトテシ附錄  
論語ノ衍文誤守等ヲ考ヘ經傳同語異義  
等ノ數則ニ舉示入學者寶一鴻寶、スマシ

疑問錄 同上 全二冊

程朱ノ學ノ大差ハ聖人ニ詭ラザレドモ  
マ、其老佛ニ混雜スルモノハ道ヲ害ヘルニ  
近キアリ先生積年其似疑ナルモノヲ  
甄別シテ駁正セリ學者ニ大功アル書ニテ  
讀書家ニ必貯スベキ編ナリ

梧坡教諭 錦城先生附言 全二冊

世教舊成意ラ主トシテ旁ラ故事古書  
ヲ引テ証明シタゞ梧坡漫筆ニ類シテ又  
別ニ總體ノ體キタゞ珍書ナリ

梧窓漫筆 錦城太田先生著 全二冊

先生平日隨筆劄記ノ書也古今治亂本  
原ヲ推シ風俗汚隆ノ係ル所ノ論ミ博ク  
趣傳子史ヲ引アレラ詔シ又學術  
雅正ヲ辨ジ天人ノ秘蘊ヲ漏ス實ニ天下  
有用ノ珍編ナリ

同後編 同上 全二冊

前編ニ漏シタル妙論ヲ載セ又經學詩  
文ノ流派ヲ辨別シテ其精確ヲ極ム  
編ト同ク双璧ノ書ナリ

同三編 同上 全二冊

向者刊行スル前後編四冊盛ニ世ニ行ハリ  
裝本日ニ給暇無ニ至ル今此三編ハ前後編ニ漏  
タル奇事魂說前合ニ仍其外ニ舊聞ヲ溫

燐シ古人未發、新得ヲ提示三家庭ノ訓説  
勿論旁ラ博聞資テ詩文學習秘訣授  
都合六冊ヲ以テ全兩鴻寶一

繙林年芳 近刻 全三冊

此書、世尊ノ降誕涅槃ヲ初トシテ  
和漢佛守始佛像傳來或ハ西卷テ  
附釋佛法、序異或ハ石勒、佛圖澄  
言シ達摩、梁武帝見或ハ白  
濟、曇慧我朝宋起  
事實白般後漢明帝  
西域二至日本  
宗引  
我人保年附千文符紀元揭  
和漢書數十部ヲ以テ其下一批鑑  
卷之專記載シタゞ和漢印度高僧  
年數探リ覆鑒顛末歟爾ニ甚便  
利ノ書トリ

西銘 附 東銘 全一冊

朱子年譜略 全一紙

朱子訓子收 全一冊

近代著述目錄 横本

全五冊

同後編

同 近刻 全五冊

此書、儒家詩人國學和歌有識故實兵家法律醫家易林陰陽五行為神道釋氏書画茶道牛心印香狂歌俳諧詫本雜技樂藝子慶長年間ヨリ天保今至九其蓮二名アル人著述ヲ收載シ通編イロハ四十七音ヘ其姓氏ヲ排列セリノ一部舉タリ近世日録ノ書頗ル多ミトイハ皆板行セル者ノミヲ載テ諸家ノ深秘寫本ヨ以テ世ニ孤行セル者ヲ記スルト此書ハ珍巻奇冊ノ聞見ニ及ハズエリ云顧君子本ヲ架上貯エ過讀玉ハ更ニ博識助トナルベシ

詩學韻海

大典禪師著 全二冊

世ニ初學作詩ノ為ニ設ル書多シトイハ韵字ノ用ユリノ例ヲ悉シ論ジタルモノ此書ハ韵字ノ二様ヲナシ又唐ノ元稹白居易等大家ノ集ヲ一長詩ヲ拾出シ古人隻句ヲヒ載セタレバ是ニ據テ其用例ヲ搜索ヒ益アル一鮮ナカズ

藝林摘葉

井良紀子綱著 全一冊

音義、訓外ヲ訂正シテ初學讀書、音トス簡便有用ノ書ナリ

鳳鳴集

太田錦城先生著 全三冊

先生詩集若干卷アリ此書ハ其七絶中殊ニ佳境ト称ル者ヲ集ム先生卓越ノ才ヲ旁ラカシ詩學用ニ唐宋諸家ニ於テ窺ハサル處ト故ニ其比興深奥ニソ世ノ詩家作トハ大ニ其趣ヲ異ニ人學者玩味シテノ作意ノ妙ノ知ルヘキナリ

唐土歷代著述目錄 橫本

全廿冊

此書ハ初メニ天子御製書目ヲ舉ゲ

次ニ歷代名家ノ著述聖賢經傳ヨ

マニ悉ク收錄シイハ四十七音ヘ其姓氏

ヲ配入シ前後新舊之書ヲ分ヘ其下

書目ヲ舉ゲ索摺便フシム讀書家

本ヲ貯ヘ披閱シ其ノ多々利益ヲ得ベシ

朱子家訓經典餘師

齊田先生述 全一冊

此書ハ南宋ノ名儒朱子先生平生子弟導キ教ラニシ家訓ノ人倫道明シ五常ノ理ヲ述ラレシヘ身ニ脩家ル最ノ書ナリ今國以テ審本解シタレバ士農工商共ニ解ニ是ヲ讀ニノ道理ヲ會得シテ一家ノ導多シハニ長久繁茂スベキ基リ

甌北詩選

清趙翼先生著 大雅詩補

全二冊

趙翼先生學問淹博近清諸家ノ巨擘ノリ此書唐宋元明清朝マテノ諸名家詩ヲ評論シ及ビ其履歴顛末考究テ精詳談博トス從前詩話ト同日ニ論スベカラザルナリ

晚唐十家絕句

全二冊

杜牧 許渾 趙嘏 李群玉 温庭筠薛能 皮日休 陸龜蒙 吳融 韋莊右十家ノ七言絕句ヲ集ム

談鋒資銳

堯民先生著 全二冊

此書ハ平日錦城先生ニ聞ク處及ビ後世隨筆中論ズル處ヲ劄記シテ學者博識資トス又小説ノ奇事奇談等載タレハ大ニ看ル人ノ悦ハシム

客杭日記

元郭畀著 全一冊

龍背發秘 太田錦城先生著 全二冊

此書一家相傳與著者之衆人為福利、導妙訣ナリ古ヨリ此類ノ書數種アリテ生起既衰ノ事ヲ載ルト雖モ元此事ハ易理ニ出テ聖人ノ人ニ教テ害ヲ避ケ利ニ就キムノ達テ吉ニ趣クノ一端ナルア言ハズ今此編ハ專ラ漢土ニ云家相ノ周易ニ原ツキ眞帝ノ宅經、呂、龍文ノ龜經トドノ秘ヲ探リタレバ古ヨリ傳ル家相ノ諸書ト互ニ發明スル處アリテ家相ノ理ヲ窮ムル必讀ノ書ナリ

頭遊仙屈抄 唐張文成作 全五冊  
本邦ニテ中華ノ小説ヲ譯解スルハ此書ヲ以テ始祖トス嵯峨天皇ノ時學士伊時丸セ、神仙訣ヲ得テコレヲ解ストイリ小説家必讀ノ書ナリ

幼々集成 清陳復正著

全二冊

龍背師傳圖說 太田錦城先生直傳 東民先生著全三冊  
此書ハ家造ノ形相地而張父等ノ画圖頭シ圖毎ニ口傳ヲ述テ任人盛衰元吉子眷属ノ幸不幸親子間故障アルヘシノル子孫出生凡て下人等ニ不忠ナル者是アル家ニ崇ル刀劍ヲ所持ナシ又火難水難病難色難盜難等ニ至ニテ眼前ニ知得ル妙訣ナリ一覽シテ其虚ナラサルヲ知玉ヘシ

痘疹不求方論 雜門先生著 全一冊

丸散 方機 小本 全一冊  
此書ハ東洞先生作テ金匱傷寒ノ方二機變妙用アルトヨ記セリ是先生常用ノ方機ニテ臨病機變活用コト書ニシキタリ且ニ散華毛、大モモ戴セタレハ大ニ幼學治癒

歷代名醫一覽 雜門先生著 全一冊

王

近世名家書画談 畫烟子編次 全二冊

此書ハ文祿慶長ノ際ヨリ享保元文頃至ルマテ名聲籍甚ノ碩儒聞入ノ列傳ヒテ其姓名字號俗稱生誕沒故ノ年月日迹與サズシル碑史鄙記及ビロ碑ニ存スル言行ノ奇談ヲ悉ク採摭シテ古人ニ面接事往事ヲ見ヒガ如クヤフシム其言行萬實アリ博覽アリ抗辯アリ矯俊アリ執拗アリ介僻アリ可貴可感可喜可驚可哀可笑佳話甚多シ故ニ者官大ニトヒ時ハ脩身齊家ノ模範トナスベク小クトル時ハ温故知新ノ談柄トシテ固陋寡聞ノ諤ヲ免ルノ術此書ニヨラズシテ又何カラム研尋ノ君子一雙巻ヲ開カバ終日手ヲ離フ事ヲ得サルホトオセヒロキ書ナリ

舊蹟紀聞 立納法師著 全二冊

星朝ノ事蹟ヲ考ヘ古語古書ヲ引詮シテ國學ノ一助トス

譯解笑林廣記

遊戲主人纂輯 全二冊

コレハ漢土ノオトシナシニシテ面白キコト  
カギリナキ書ナリ俗語バカリニテ讀かタ  
キ一今和解註釋ヲカヘ誰ニテモヨイ安  
コトセリ且俗語小説ヲヨミ習ヒトスニ  
漢土ノ人情ヲ知ラザレハ解スルヲ能ベ此  
書ニイカナルモ悉ク漏サズアル故ニヨク  
人情俗態ニ達スルニ妙ナリ故ニ俗語ヲヨム  
入ヘ捷徑ニシテ闕バカラザル書ナリ

開卷百笑

漢洲樓馬馬大評 全一冊

此書ハ馬馬大人の集玉也奇也妙也之  
昔のあと一もあらず老若男女共  
小豆がり安さゆふを喜び乍ら然れど其  
日も清い本筋の開卷とあくまでもけん  
かに一奇也之實は是と審きよきハ影す  
笑美と傳へる何事も着目の人とぞとも  
絶好也其るゆゑ單にて開卷百笑  
と題する也

笑戲自知錄

伴田陳人著 全一冊

此書ハ公學子ゆづれし年もと  
森の根脚又は家語と車のとく  
のは又、殊一文子て天下の富とる  
ゆきの戯游樂道を以て時解説  
海より西向へ也如

烹雜之記

曲亭主人著 全一冊

此漢の玉表市井の信る中古  
もとづれ考へ又新ふ舊も舊不離  
の是ならると浦川へあせと傳せ  
疊ひも冷編かり

棟梁集

松屋主人著 全一冊

此虫ハ医家冥氣の附屬焉於の絲也名也  
角田氏の故家を外種の延慶極も之經論  
して至精確と究も了然の後半が主にて  
警裏せしも承りの士君子の意もあらわ  
也と漢書ハ醫學の心靈也

產科發蒙

鶴陵序倉元周先生著 全六冊

此書ハ妊娠中ノ諸症臨產ノ經驗治方  
悉ク舉ゲ且產論翼ノ補ハラサルヲ  
明シ又阿蘭陀難產ノ圖二十七ヲ翻譯  
シテ審ニ示シ且家秘ノ妙方ヲアラハシ  
タレバ其治療ニ益アルト舉テ數フベ芳  
ラズ醫ヲ業トスモノ一日モ此書ナグニハ  
アルベカラズ

靜儉堂治驗

同上

全五冊

此書ハ先生數十年來ノ治驗百中  
アシルニ置レタルヲ集メラレタルナリ病  
者ノ姓名住所前醫ノ治方又ハ自己  
一與ヘタル劑ノ効アル効ナキヲ包ムヲナク  
一弟子大森氏ノ治効十餘條ヲ記シ又  
眾醫ノ治スル能サレ奇疾ヲ治ニタル等  
國字ヲ以テ書レタレバ實ニ後進有益ノ書ナ

傷寒啓微

同上

全三冊

此書ハ傷寒論ノ諸註家未ダ言ガル所  
ニ斑猶ヲ以テ毒ノ去ル事ヲ發明シ千古  
以來コレ無キ治術ヲ萬世ニ傳ハリ又梅  
瘡ノ治法此書ヲ能反覆シテ讀一キハ  
如何トシ難忘ニテモ治セサルハナシ實ニ天  
下第一ノ奇書ナリ

青囊瑣探

鶴陵寧倉元周先生著

全二冊

此書、先生、漫筆ニシテ人ノ戒トナリ又初堂ニ學業ヲ勸ノ人情ノ免レザル所ヲ記シ且奇効アル秘方並ニ甲斐、德本ノ經驗十九方ノ主治藥方ヲ舉グ醫家ノ重寶ナル書ニシテ又俗家ニテモ是ヲ讀トキハ發憤ニテ壯年、益トナルト多シ

三餘叢談

柳崖主人著

全一冊

皇朝の國史或ハ古にわざ文等ふ此を解リテ之ヲ予どもと詳小考究ノから奇冊なり

東江先生書話

全三冊

我邦晉唐法書ニ根據シテ書學一變セリモノノ先生ヲ以テ祖師トナス此書ハ諸家隨筆中ヨリ古名人ノ墨蹟ニ關ルト考索シラ學書ノ人ノ博識ヲ資ク實用・附解・珍編ナリ

翁野さし記行

成美大人物全一冊

歸正漫錄

安井真祐先生著全一冊

宋明名儒數輩ノ佛老ノ害ヲ論セシラ諸書ヨリ歩獵シテ既出人異端ノ邪路ニ迷フ者ノノ正シキ儒道ニ歸リ入ラシム古今書法必用ナリ

五體雲淡帖

星池先生書清人集書全一帖

扇面清風帖

星池先生校

全一帖

瘍科秘錄

秦軒本間先生著

全七冊

華岡翁ノ遺教ヲ述又先生ノ自傳明スル所ノ術ヲ加へ瘍科ノ治法ヲ論スル次ニ脈證ヲ説キ瘍瘍變正輕重之等ヲ詳ニス終ニ禁方秘術ヲ載ニ實治療ヲ施スハ起死回生功ヲ立所ニ成ベシ

思貽全管城二譜

廣澤先生著

全一冊

此書ハ廣澤先生嘗テ和筆ノ製用ニ雷ラズ唐筆ノ善ニ及サラ憾ミ專ラ唐式ニ各圖式ヲ作りテ遂ニ此一書ヲ著セリ

淘ニ藝林ノ闕典ヲ補フ書ト云シ

道彦自書画二十六譜仙

全一冊

神道玉鉢の道草

跡部光海著

全一冊

官刻千祿字書

顏真卿書

全一冊

東坡大江東帖

草書

全一帖

趙子昂大湖帖

行書

全一帖

米元章主家帖

行書

全一帖

董其昌登龍帖

草書

全一帖

古今名蹟墨寶帖

正面

全一帖

上古三漢ヨリ或ハ原半諾將公朱武家  
或ハ逸人名臣僧家ニ名アヘ人真蹟ラ  
刻シタハ上古ヲミタフ君子ノ机上ニ  
アルベキ書ナリ

藏板目録

王屑帖 星池先生書

全一帖 掌中書名便覽 折本 全一冊

和漢對照書札

初編 二編 全二冊

上六經ヨリ下ハ 檜史ニ至シテ 真目  
擇ゲ一見シテ 益アルト勝シ

清朝ノ當時應用ノ書牘ヲ 和文書辭  
翻譯ニタレノ學問ノ一益ニシテ 且ツ星  
池氏ノ書ノ道美ナルヲ 嘆賞スベシ

胸中小

全一冊

大橋先生手簡 全一冊

全一冊

龜田曉齊先生ノ画譜ナリ 大儒ノ戲墨  
實神出鬼沒變幻ノ奇ヲキハ

農家調寶記

全二冊

用文書の事類多々之の全もこれ至  
耕作農具村役の通緋清文の事或之類  
文字とゑく文書仲宣武隆兩該考の  
事書ふほどり切上を西洋の書類  
やうある文類又ハ 国流の難云ハズ  
い虫ハ文書一例今五級之  
耕作農具村役の通緋清文の事或之類  
文字とゑく文書仲宣武隆兩該考の  
事書ふほどり切上を西洋の書類  
やうある文類又ハ 国流の難云ハズ  
い虫ハ文書一例今五級之

農家調寶記

全二冊

蓬池堂任槐帖 全一冊

全一冊

は春ハ天地開け耕作せる由來  
百姓有よりて甲兵馬鷹の勤方化物  
地方餘地の年貢賦役農耕不宣年耕  
耕法律文譜を男女皆身の武木の爲  
りとも見て閑空を紀さり思ひあわすと  
日本ノ土氣也少く無事也其事代續不易  
繁榮もへど宜也

農家調寶記

全一冊

農家用文章大全

全一冊

名豊稼錄

全一冊

農家用文章大全

全一冊

は春ハ櫻と柳と樹干あるは伊方花  
たるよりのくそし、利基をきり先輩一  
かの氣天あても種と見て落葉よ樹  
て下した、葉の精氣未ようりて更入  
よくを及ふ来ハ九外ハ松納多く油木  
小虫つらじ端て白來ともも小滅少く  
御はたま玉枝で胞あり油木せてぶれ  
らく愛したれ石を根三重々、若き  
うきこゆ教年なめして記したるあけ  
まえづくさるまかり

野總茗話 常盤潭北著

全五冊

秘傳烹寶記

古函館

折本

は書ハ病大毒虫を外平生のいとへき  
みの散剤とをして隨筆記録のよき  
もじ。本傳佛の大病を除だき傳者  
の心法とをひかれて考ぬよとひぐべー

成反丁录

實語教童子教證註

振驚亭先生著  
全二冊

古狀揃證註

高井蘭山翁著  
全一冊

御成敗式目證註

同上  
全一冊

長雄書札文集

船田耕山書  
全二冊

墨河八景帖

御家攀雲堂書  
全一冊

頭通俗用文章

全一冊

陰陽新撰八卦鈔

全一冊

長雄女今川

全一冊

挿花圖式

全二冊

日本國郡附

兩面  
一紙

古錢鑑價附

全一冊

泰平年代記

全一冊

古狀揃萬寶藏

頭書  
全一冊

實語教童子教

頭書  
無題

全一冊

大坂 心齋橋通北久太郎町

河内屋喜兵衛

江戸 日本橋通壹町目

須原屋茂兵衛

淺草茅町三丁目

須原屋伊

芝神明前

岡田屋嘉

日本橋通三丁目

山城屋佐兵衛

英 同所

小林 新兵衛

本石町十軒店

大助

横山町三丁目

和泉屋金右衛門

